

新鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

※修正箇所は下線を引くこと

1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記号

d...異形棒鋼の呼び名に用いた数値(径) D...部材の成、又は鉄筋内法直径
 @...間隔 r...半径 C...中心線 Q...部分間の内法距離 h...部材間の内法高さ
 S T...あばら筋 HOOP...帯筋 S.HOOP...補強帯筋

2. 鉄筋加工

(1) 鉄筋の折り曲げ加工

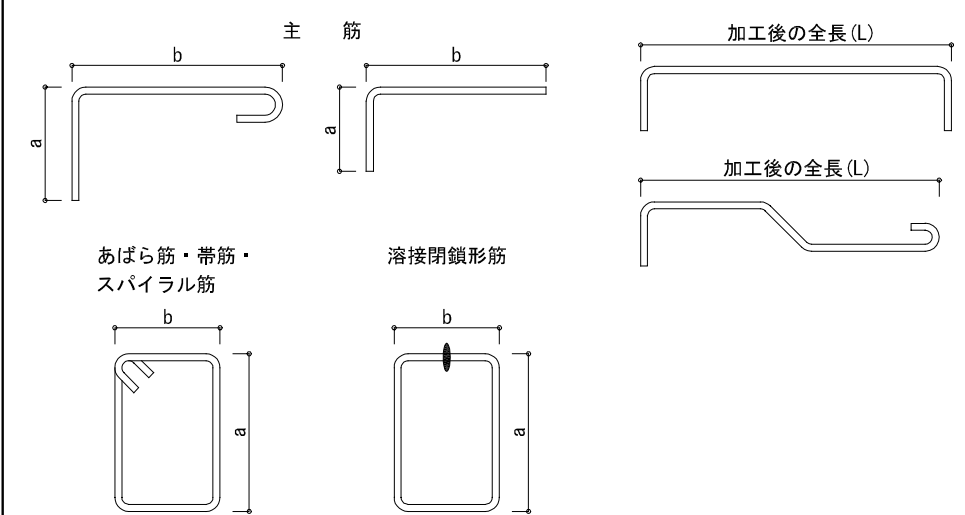
図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180°	SD295 SD345	D16以下	3d以上
	135°		D19~D41	4d以上
	90°	SD390	D41以下	5d以上
	90°	SD490	D25以下	6d以上
	90°		D29~D41	6d以上

- [注] (1) dは呼び名に用いた数値とする。
 (2) スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。
 (3) 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
 (4) スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。
 (5) 折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。
 (6) SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

(2) 加工寸法の許容差

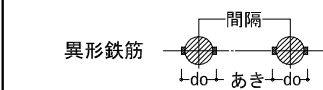
項	目	符号	許容差
各加工寸法(1)	主筋	D25以下	a, b ±15
		D29以上D41以下	a, b ±20
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋	a, b	±5
	加工後の全長	L	±20

[注] (1) 各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



(3) 鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。

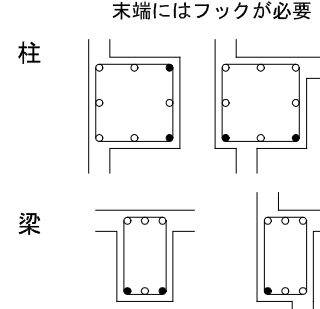


(4) 鉄筋のフック

a~eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

- a. あばら筋、帯筋、および幅止メ筋
 b. 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)
 c. 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分
 および下端の両端にある場合の鉄筋(右図参照)
 d. 単純梁の下端筋
 e. その他、本配筋標準に記載する箇所

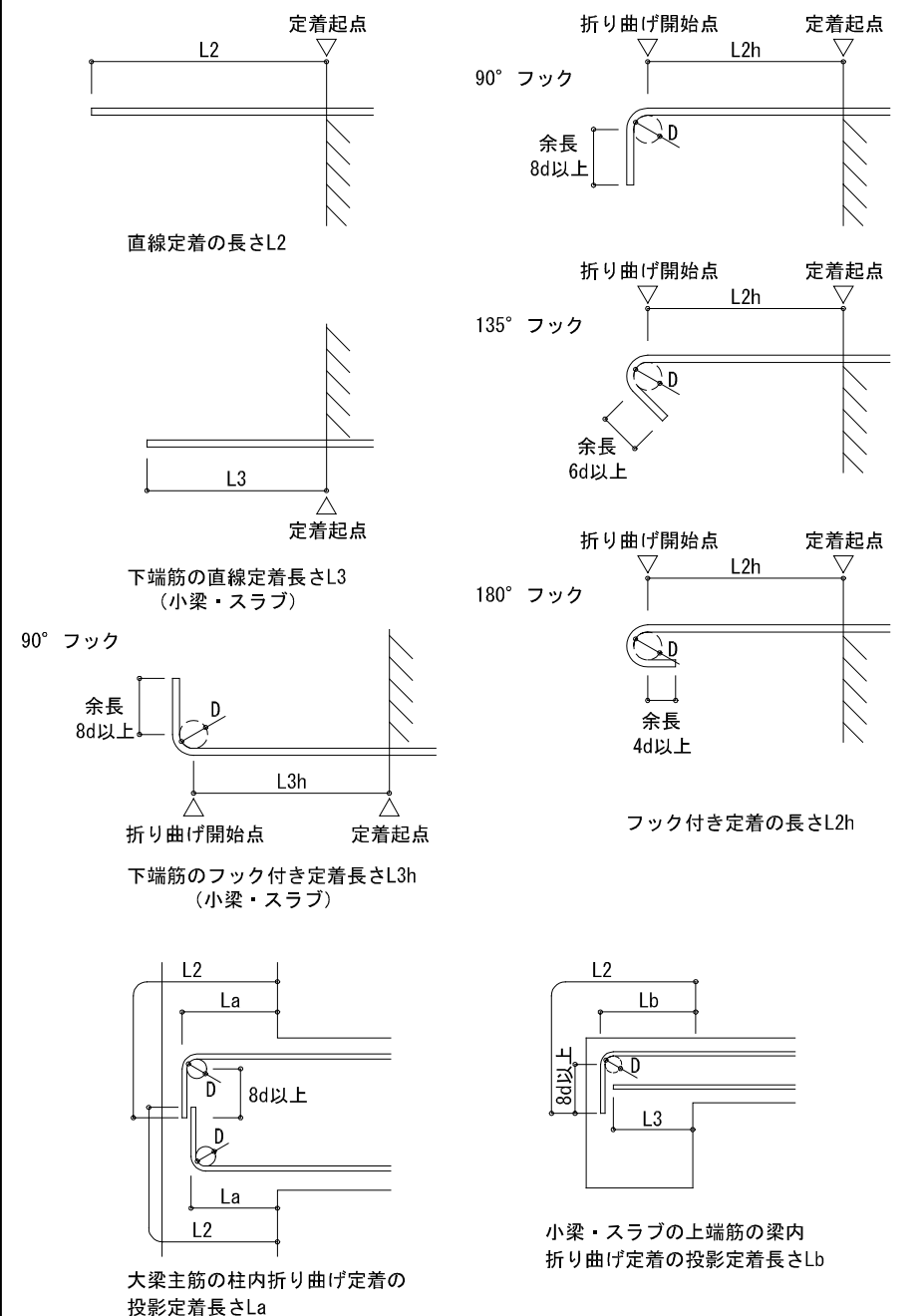
図の・印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



(5) 定着長さ (軽量コンクリートでは5dを加算する。)

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	定着の長さ						
		L2 (フックなし)	L2h (フックあり)	La ⁽³⁾	Lb	L3 (フックなし)	L3h (フックあり)	スラブ下端筋 L3
SD295	18	40d	30d	20d	15d			
	21	35d	25d	15d	15d			
	24~27	30d	20d	15d	15d			
	30~36	30d	20d	15d	15d			
	39~45	25d	15d	15d	15d			
	48~60	25d	15d	15d	15d			
SD345	18	40d	30d	20d	20d			
	21	35d	25d	20d	20d			
	24~27	35d	25d	20d	15d	20d	10d	10d
	30~36	30d	20d	15d	15d	20d	10d	10d
	39~45	30d	20d	15d	15d	20d	10d	10d
	48~60	25d	15d	15d	15d	20d	10d	10d
SD390	21	40d	30d	20d	20d			
	24~27	40d	30d	20d	20d			
	30~36	35d	25d	20d	15d			
	39~45	35d	25d	15d	15d			
	48~60	30d	20d	15d	15d			
	48~60	30d	20d	15d	15d			
SD490	24~27	45d	35d	25d	—			
	30~36	40d	30d	25d	—			
	39~45	40d	30d	20d	—			
	48~60	35d	25d	20d	—			

- [注] (1) フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
 (2) フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。
 (3) 梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL2以上とするともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。
 (4) 耐圧スラブの下端筋の定着長は一般定着L2とする。



(6) 継手

■重ね継手 (軽量コンクリートでは5dを加算する。)

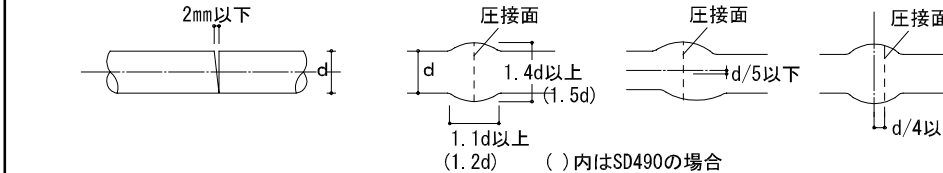
鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	重ね継手長さ	
		L1 (フックなし)	L1h (フックあり)
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24~27	35d	25d
	30~36	35d	25d
	39~45	30d	20d
	48~60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24~27	40d	30d
	30~36	35d	25d
	39~45	35d	25d
	48~60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24~27	45d	35d
	30~36	40d	30d
	39~45	40d	30d
	48~60	35d	25d
	48~60	35d	25d
SD490	24~27	55d	40d
	30~36	50d	35d
	39~45	45d	35d
	48~60	40d	30d

- [注] (1) 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
 (2) 直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。
 (3) フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

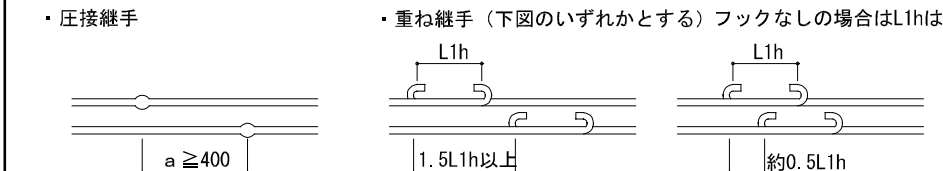
■継手に関する注意点

- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
- 鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。
- ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

・ガス圧接形状(平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの)



・圧接継手



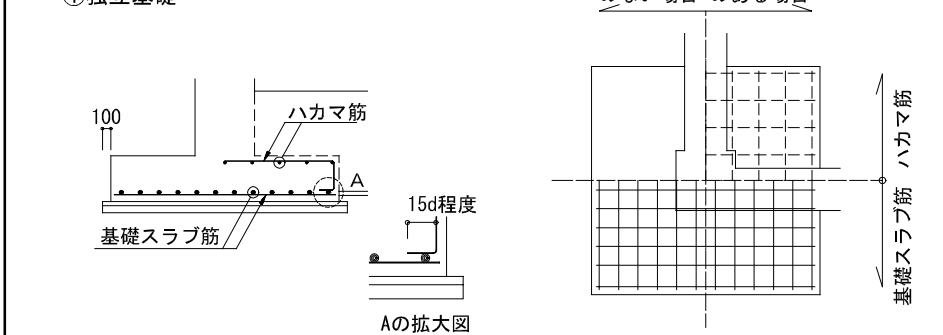
- 溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評定を受けたA級継手工法とする。
- 非破壊検査は工事監理者が承認した信頼できる検査機関で行うこと。

3. 杭・基礎

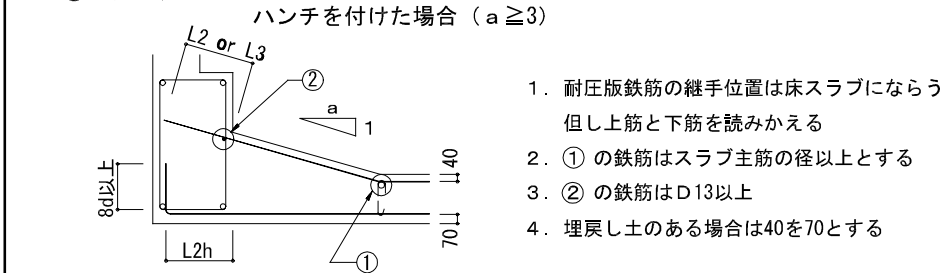
(配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること)

(1) 直接基礎

①独立基礎



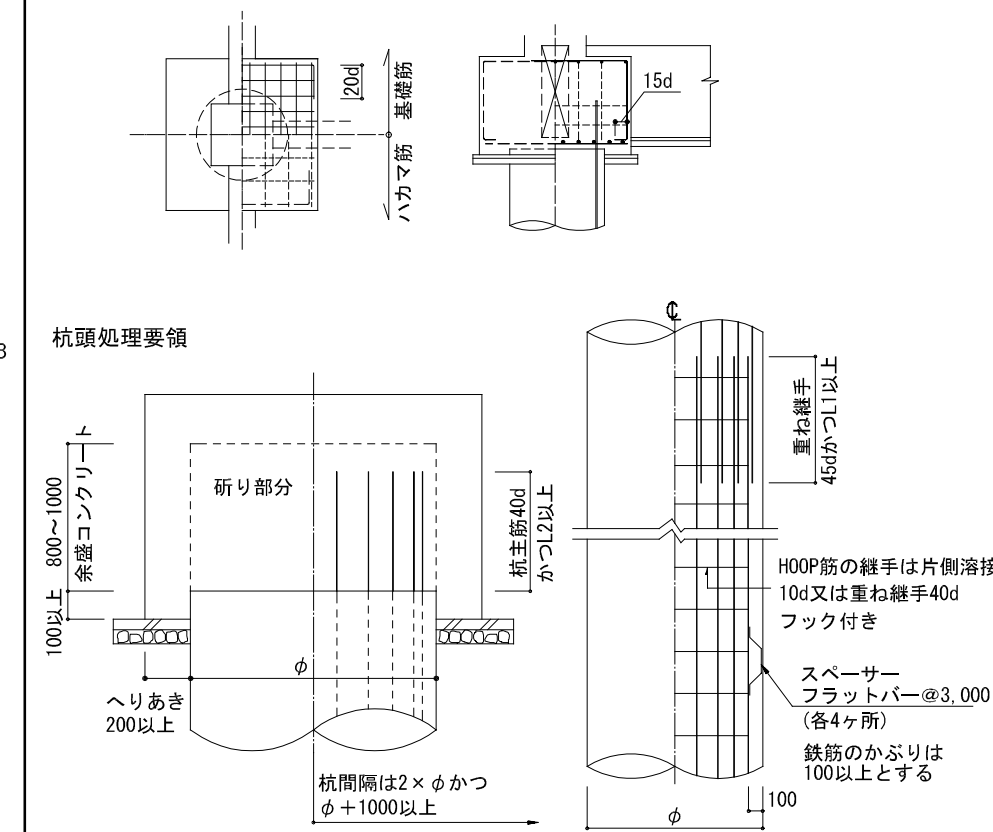
②ベタ基礎



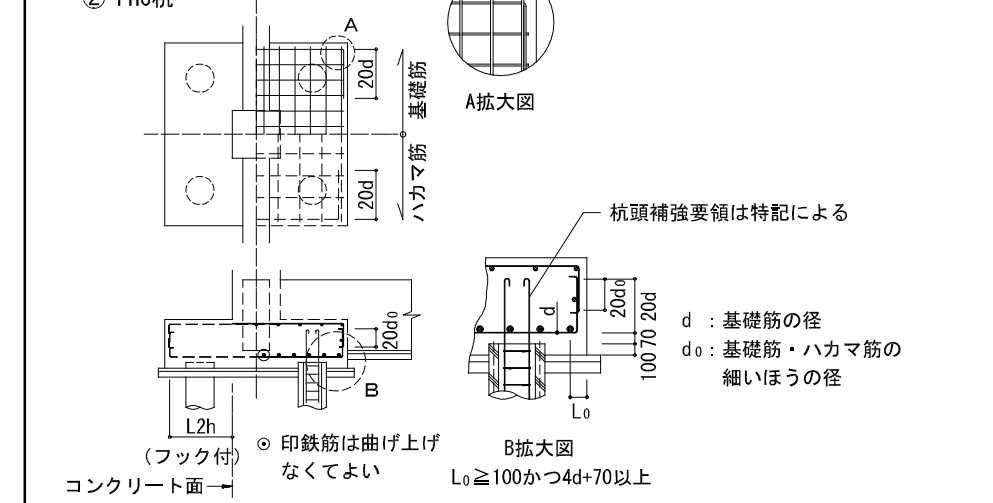
- 耐圧鉄筋の継手位置は床スラブにならう但し上筋と下筋を読みかえる
- ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
- ②の鉄筋はD13以上
- 埋戻し土のある場合は40とする

(2) 杭基礎

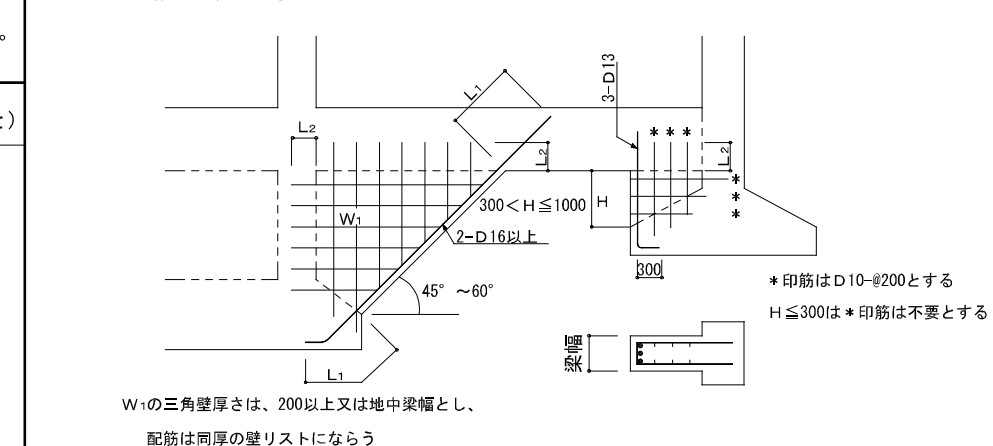
① 場所打ち杭



② PHC杭



(3) 基礎接合部の補強

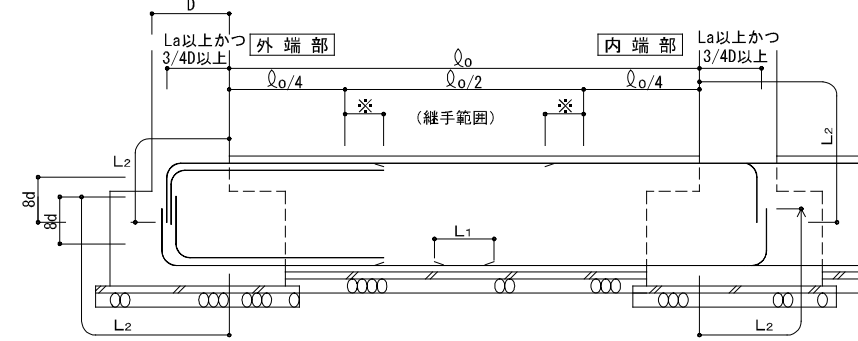


新鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

※修正箇所は下線を引くこと

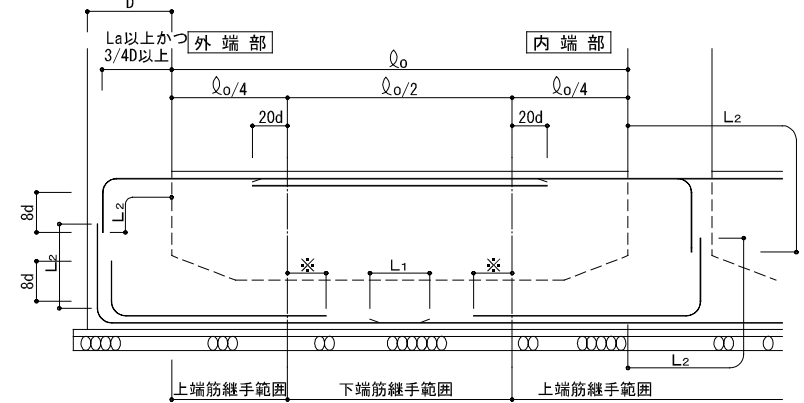
4. 地中梁

(1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)
(長期荷重が支配的な場合の継手は6.(2)大梁継手位置とする。)



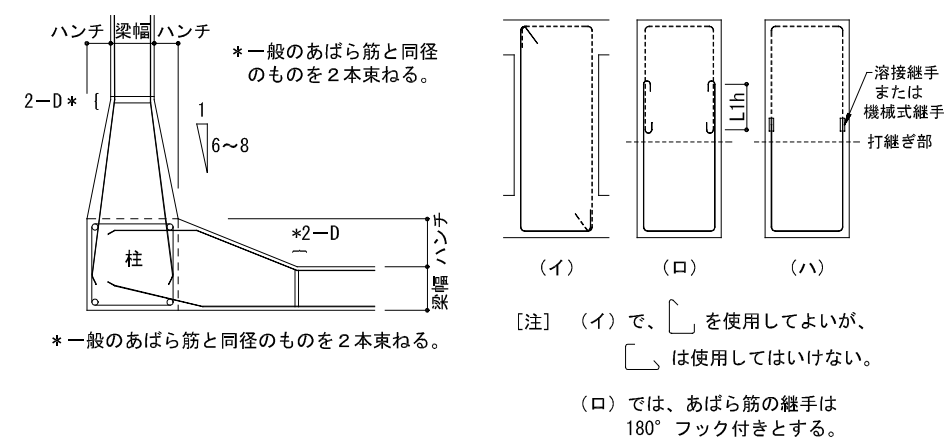
※主筋のカットオフ長さは $l_o/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

(2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)

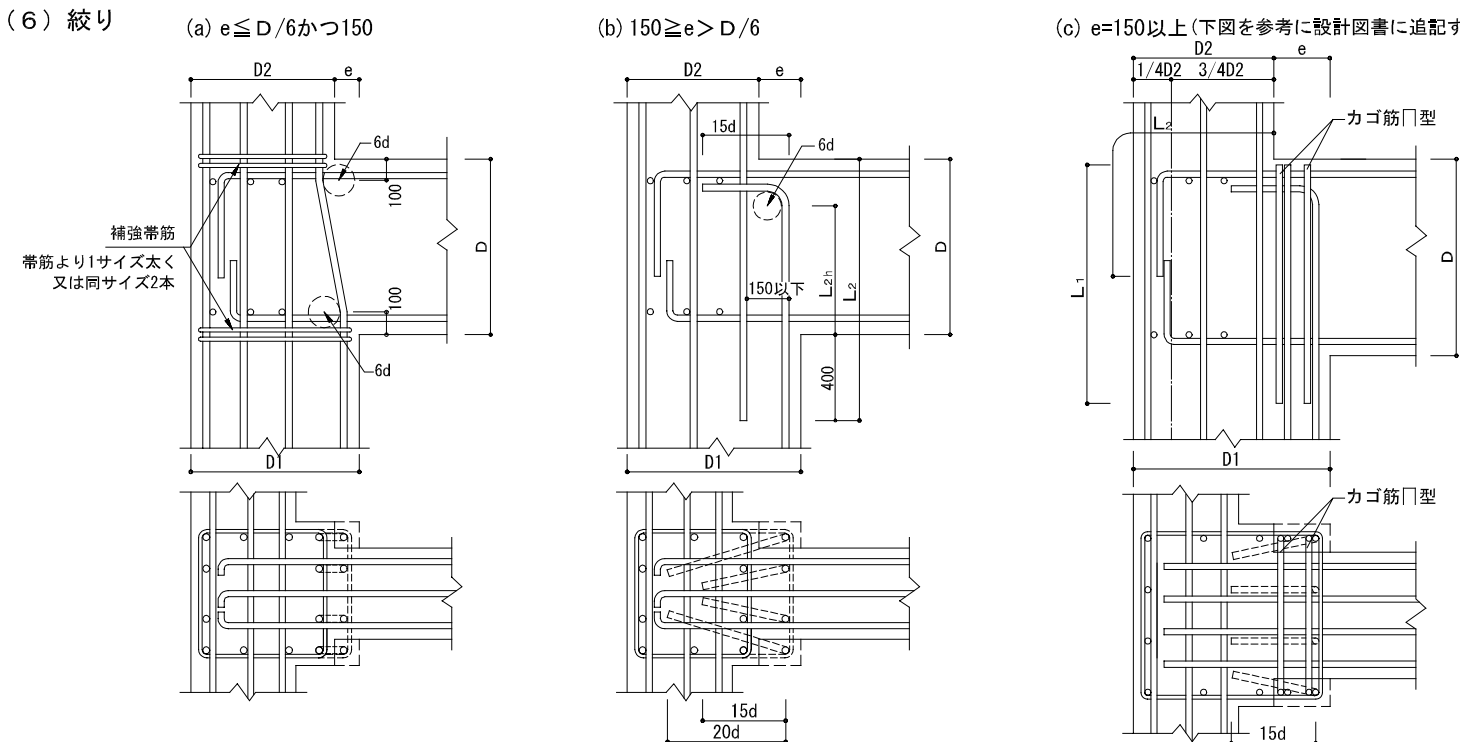


※主筋のカットオフ長さは $l_o/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

(3) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領 (4) せいの高い梁のあばら筋加工要領

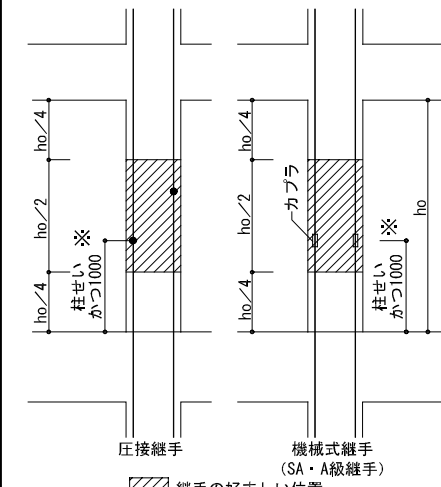


(6) 絞り



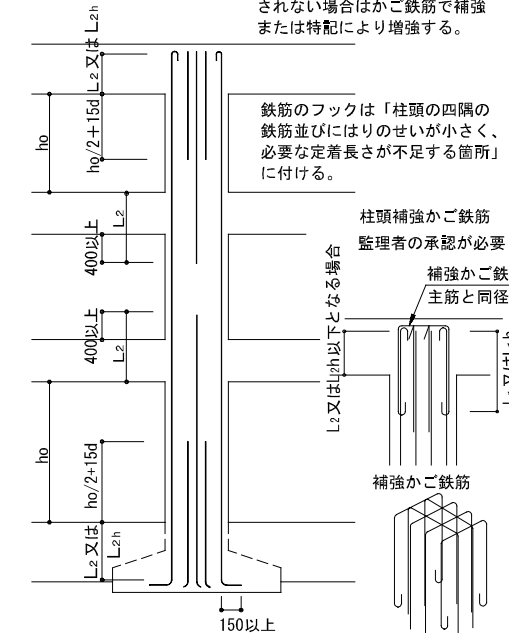
5. 柱

(1) 柱主筋の継手位置

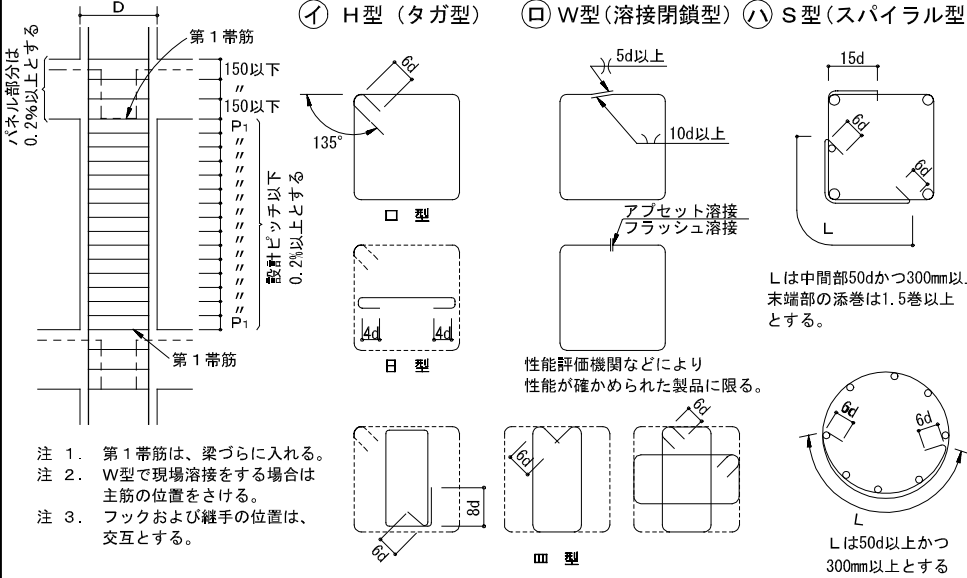


※柱せいが1.0mを超える場合の1階の継手位置は特記による。

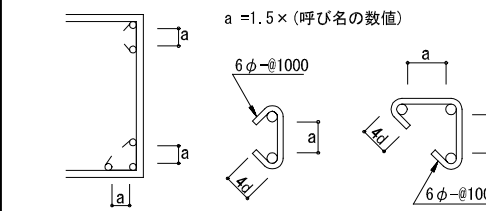
(2) 柱主筋の定着



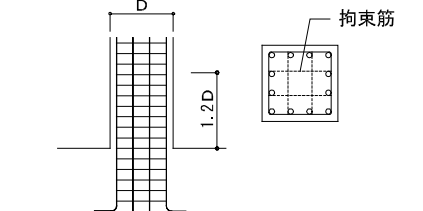
(3) 帯筋



(4) 寄せ筋の保持

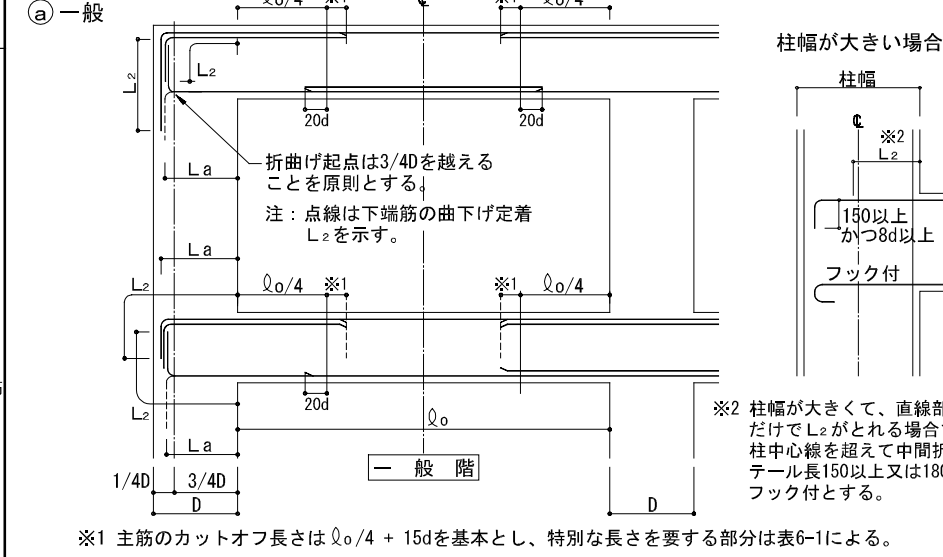


(5) 柱脚部の補強



6. 大梁

(1) 定着



(2) ハンチがある場合

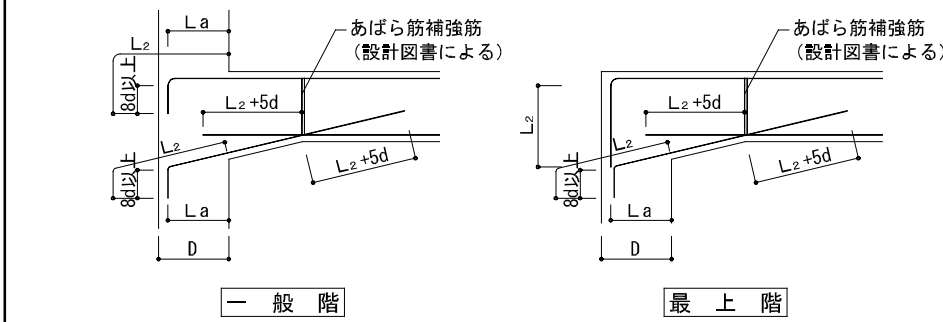
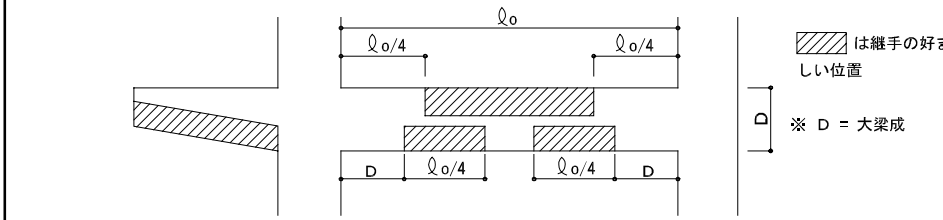


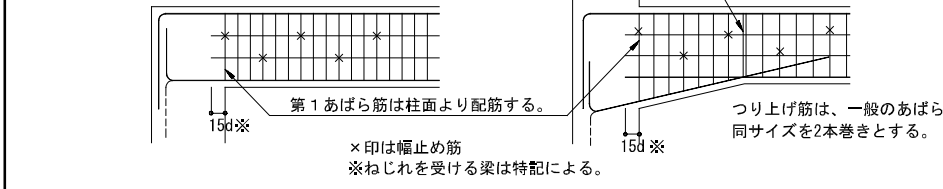
表6-1 特別なカットオフ長さを要する部材 (mm)

部材名	$l_o/4$ に加える長さ	部材名	$l_o/4$ に加える長さ

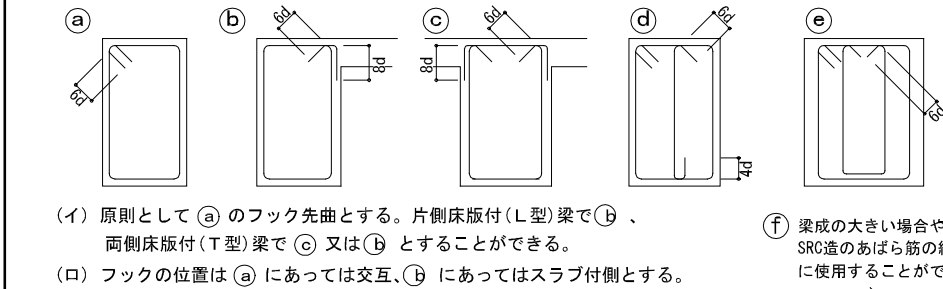
(2) 大梁主筋の継手 (SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による。)



(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置



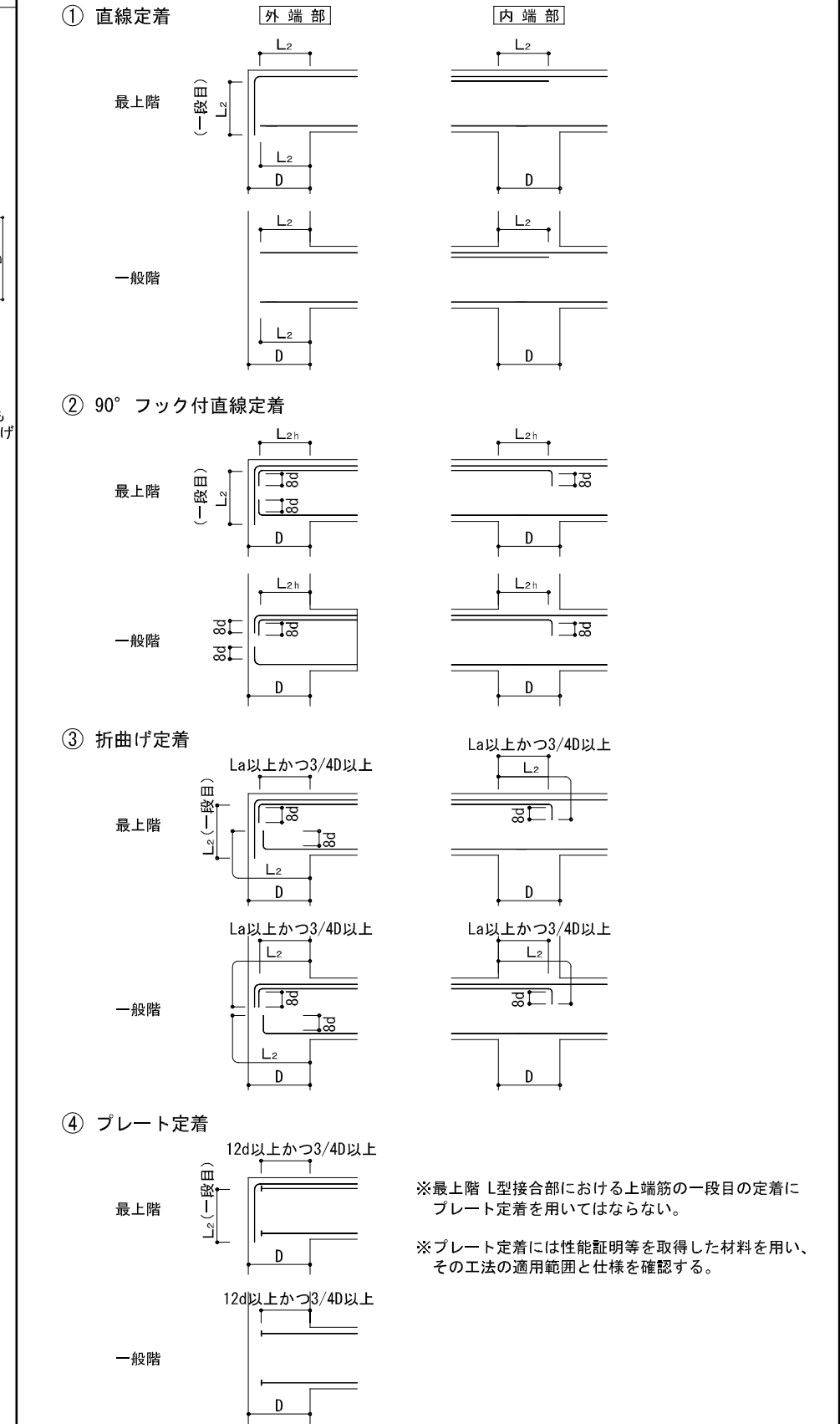
(4) あばら筋の型 (注、床版がない場合は135°以上のフックとする。)



(5) 幅止め筋の本数、加工

腹筋	幅止め筋
D < 600 不要	D10@1000以内で割り付ける
600 ≤ D < 900 2-D10 1段	
900 ≤ D < 1200 4-D10 2段	
1200 ≤ D D10@300以内	
1200以上 D13@300以内	

(6) 梁主筋の定着



※最上階 L型接合部における上端筋の一段目の定着にプレート定着を用いてはならない。
※プレート定着には性能証明等を取得した材料を用い、その工法の適用範囲と仕様を確認する。

新鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)

7. 小梁、片持梁

(1) 定着

① 小梁の定着

② 段差小梁の配筋(連続端の場合)

③ 小梁筋の継手位置

④ 片持梁の定着

8. 床版

(1) 定着および継手

(2) 屋根スラブの補強

(3) 片持床スラブ定着及び出隅部補強

(4) 床版開口部の補強

(5) 床版段差

(6) 土間コンクリート

(7) 釜場

床版厚さD	周囲	斜め
D ≤ 150	上・下各 2-D13	1-D13
150 < D ≤ 300	上・下各 2-D13	1-D13
300 < D ≤ 500	上・下各 2-D19	1-D16

9. 壁

(1) 定着

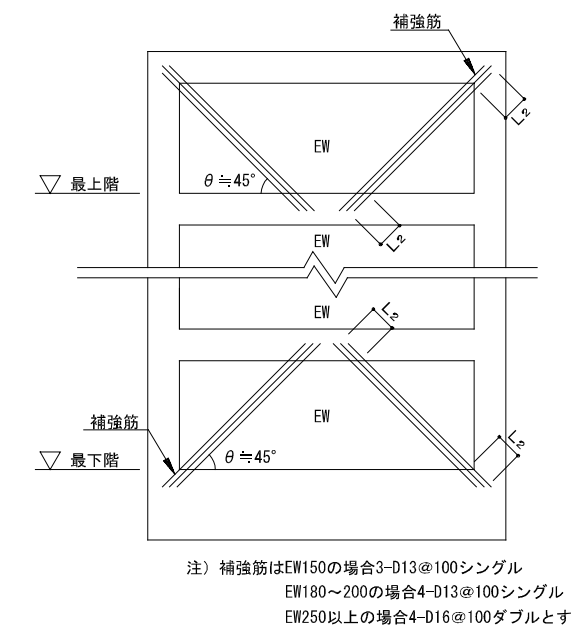
(2) スリット部

(3) 手摺、パラベット

(4) コンクリートブロック積壁

(5) 耐震壁端部の納まり

(6) 連層耐震壁乾燥収縮の補強筋



10. 柱、梁増打コンクリート補強(増打するときは事前に設計者、及び工事管理者と打合せのこと)

(1) 柱

(2) 梁

11. 梁貫通孔補強(開口補強筋については計算により確認すること)

(1) 設置可能範囲

(2) 既製品

鉄骨構造標準図(1)

※修正箇所は下線を引くこと

① 一般事項

- (1) 材料及び検査
 - (a) 新構設計仕様書による
 - (b) 本標準図はベースプレートを除き鋼材の厚さが40mm以下の工事に適用する。但し、ベースプレートの厚さは除く。
 - (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の検査結果を添付する
- (2) 工作一般
 - (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監督者の承認を得る
 - (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫り部は、鋼管自動切り断機による
 - (c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする
- (3) 高力ボルト接合
 - (a) 本標準図に使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。
 - (b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを産金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、一様こざびを発生させた状態とする。但しショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50μm R_z以上である場合は、さびの発生は要しない。
 - (c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。
- (4) 溶接接合
 - (a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。
 - (b) 溶接技能者
 - 溶接技能者は施工する溶接に適合するJIS Z 3801(手溶接)又はJIS Z 3841(半自動溶接)の溶接検定試験に合格し、半年以上溶接に従事している者とする。
 - (c) 溶接機器

(イ) 交流アーク溶接機 300A~500A	(ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
(ロ) アークエアガウジング機(直流)	(ホ) 溶接電流を測定する電流計
(ハ) セルフシールドアーク溶接機	(ヘ) 溶接棒乾燥器
 - (d) 溶接方法

被覆アーク溶接(アーク手溶接、MC、MP)	ガスシールドアーク溶接(半自動溶接、GC、GP)
セルフシールドアーク溶接(半自動溶接、NGC)	アークエアガウジング(AAG)
 - (e) 溶接姿勢

下向 F	立向 V	横向 H	上向 O
------	------	------	------
 - (f) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。
 - (イ) 仮付位置
 - 組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける
- (5) 塗装
 - (a) コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体化する設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

② 溶接規準図 (注) f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース S:脚長 (単位mm)

- (1) 隅肉溶接

t ≤ 16mm	7以下	8	10	11	13	14	16
S	6	7	10	11	12		

 - 組立面溶接の場合はS=tとする
 - tはt1、t2の小さい方とする
 - 余盛は(1+0.1S)mm以下とする
 - 軸力が加わる場合はSは母材と同厚とすることが望ましい
- (2) 部分溶け込み溶接 (使用箇所に注意)

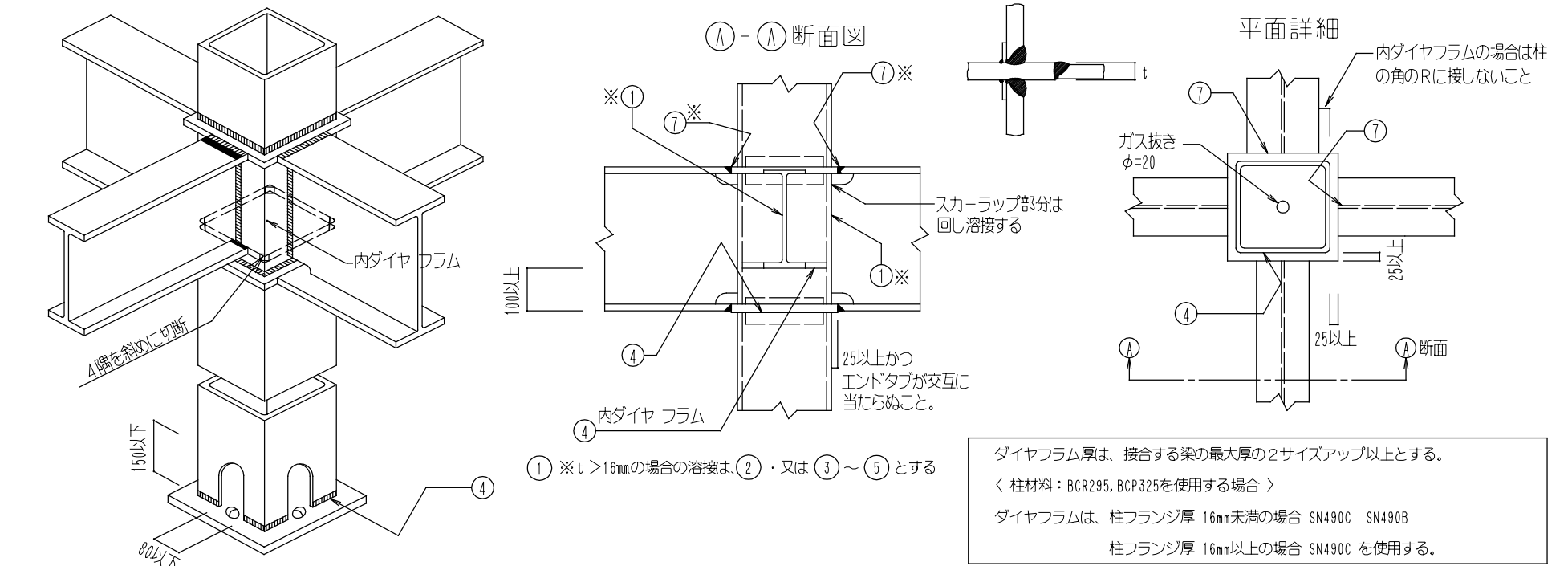
R ≤ 2	t/4 ≤ f ≤ 10
t ≤ t1	t > 16mm
溶接姿勢	F、V
- (3) 完全溶込み溶接 (平継手 T形継手)

t/4 ≤ f ≤ 10	t > 16mm
溶接姿勢	F、V
- (4) フレア溶接

寸法(mm)	
φ	B S
9	7 4
13	8 4.5
16	9 5
19	10 6
22	11 7
25	12 8

 - フレア溶接長は、鋼板に接する全長とする
 - 9mm~16mmは1/4以上、19mm以上は2/3以上とする
 - 溶接傾角度θは30°~40°とする

● B O X 型 (通しダイヤフラムの場合)

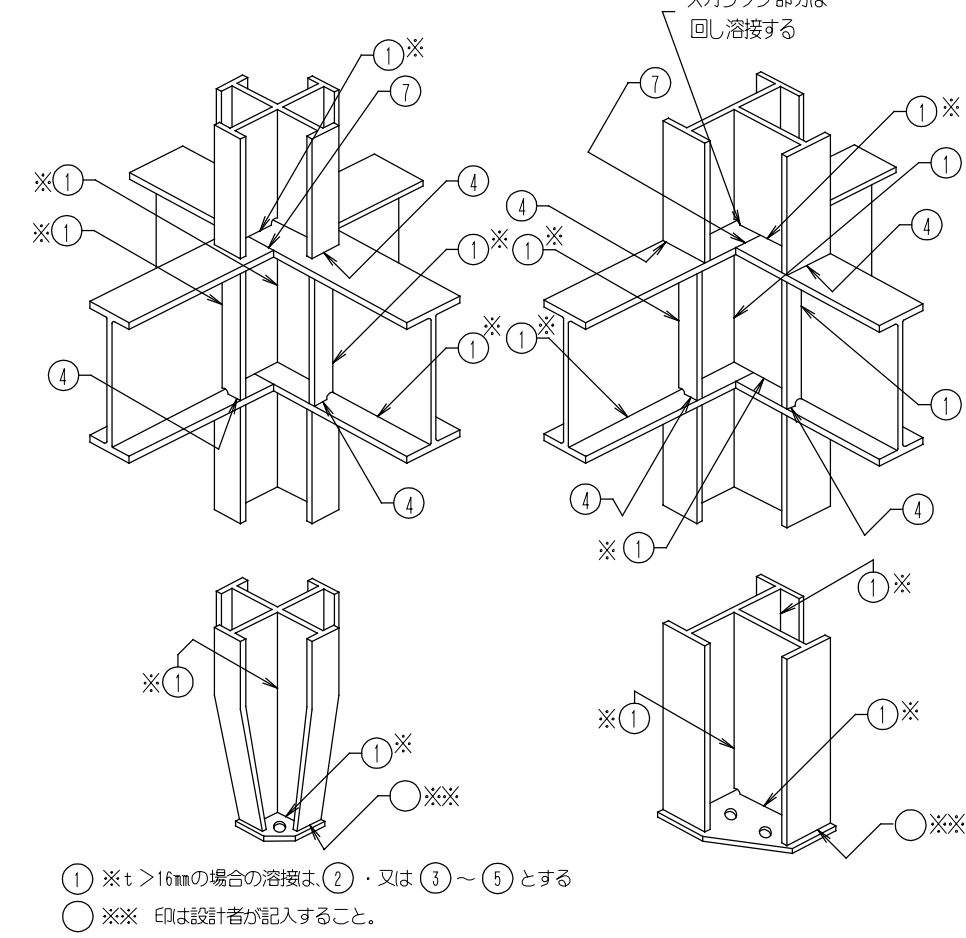


● 鋼材種別による溶接条件 溶接材料と入熱量・バス温度

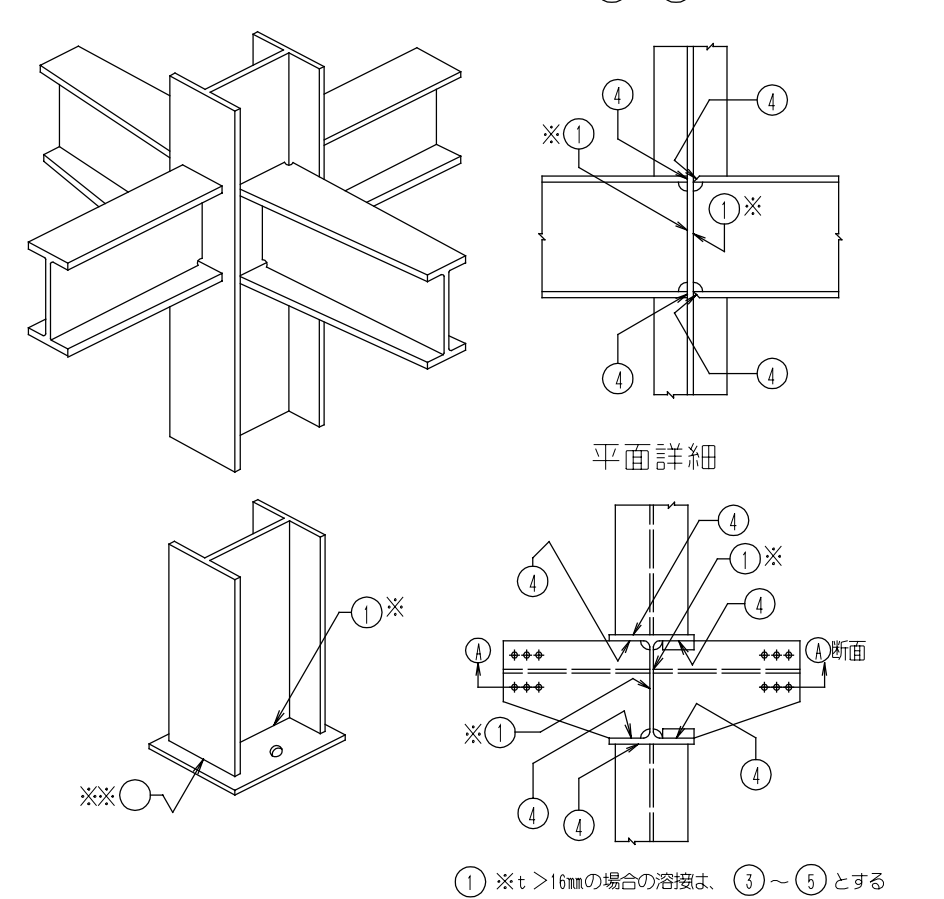
鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱(kJ/cm)	バス温度(℃)
一般鋼材	JIS Z 3312	YGW11, YGW15 YGW18, YGW19	40 以下	350 以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40 "	350 "
	JIS Z 3211	E43xx, E49xx	40 "	450 "
	JIS Z 3312	YGW11, YGW15 YGW18, YGW19	30 "	450 "
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30 "	350 "
	JIS Z 3211	E49xx	40 "	350 "
冷間成形角形鋼管	400N級炭素鋼	YGW11, YGW15 YGW18, YGW19	30 "	250 "
	BCR295, BCP325 SKR400	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40 "	350 "
	490N級炭素鋼	YGW18, YGW19	30 "	250 "
	BCP325 SKR490	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30 "	250 "

注) ロボット溶接の場合(一社)日本ロボット工業会による建築ロボットの型式認定条件に従うこと。
 490kJ/cm²を超える部材は適合する溶着金属を使用すること。
 ガスシールドアーク溶接による完全溶け込み溶接に適用する。

● H, H 型



● B, H 方式



鉄骨構造標準図(2)

※修正箇所は下線を引くこと

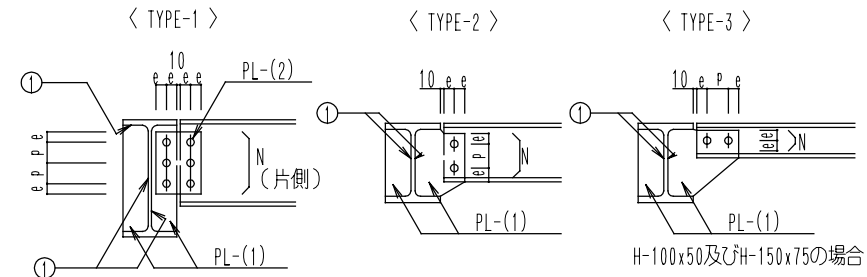
③ 継手規準図、その他

(1) 高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ(P)

呼び径 d	ボルト 穴径	最小縁端距離 (e)			ピッチ (P)		
		(1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	最小	標準
M16	18	40	28	22	40	40	60
M20	22	50	34	26	40	50	60
M22	24	55	38	28	40	55	60
M24	26	60	44	32	45	60	70
M16	21 (16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
M20	25 (20.5)		34	26	(40)	(50)	(60)
M22	27 (22.5)		38	28	(40)	(55)	(60)
M24	29 (24.5)		44	32	(45)	(60)	(70)
M27	32		49	36			
M30	35		54	40			
M30	呼び径+5		94/5	44/3			

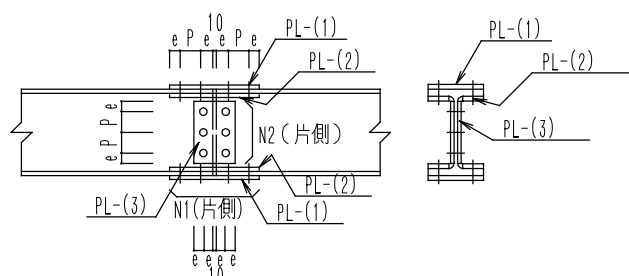
- (注) (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離。
 (2) せん断線・手動ガス切断線の場合の縁端距離。
 (3) 圧延線・手動ガス切断線・のこりき線・機械仕上線の場合の縁端距離。

(2) ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部材	PL-(1)	PL-(2)	N-径
	3	H-125 x 60 x 6 x 8	6		2-M16
	3	H-150 x 75 x 5 x 7	6		2-M16
	2	H-175 x 90 x 5 x 8	6		2-M16
	2	H-200 x 100 x 5.5 x 8	6		2-M16
	2	H-250 x 125 x 6 x 9	6		2-M16
	2	H-300 x 150 x 6.5 x 9	9		3-M20
	2	H-350 x 175 x 7 x 11	9		4-M20
	1	H-350 x 175 x 7 x 11	9	6	4-M20
	2	H-400 x 200 x 8 x 13	9		5-M20
	1	H-400 x 200 x 8 x 13	9	6	4-M20

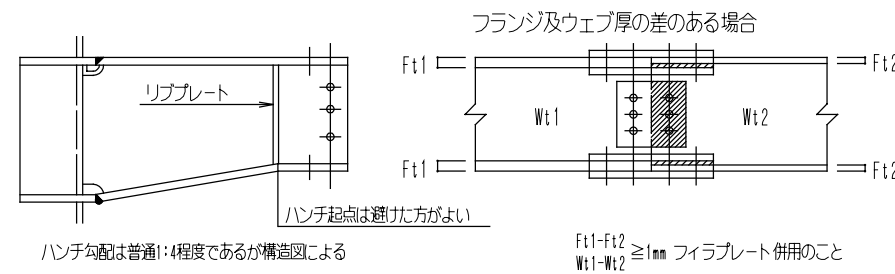
(3) 剛接合継手リスト (SCSS-H97による)



注) 端部をBHとする場合の部材は設計図による

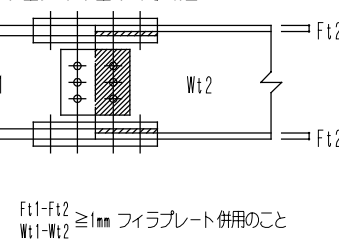
符号	部材	フランジ			ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径

(4) ハンチ部の継手



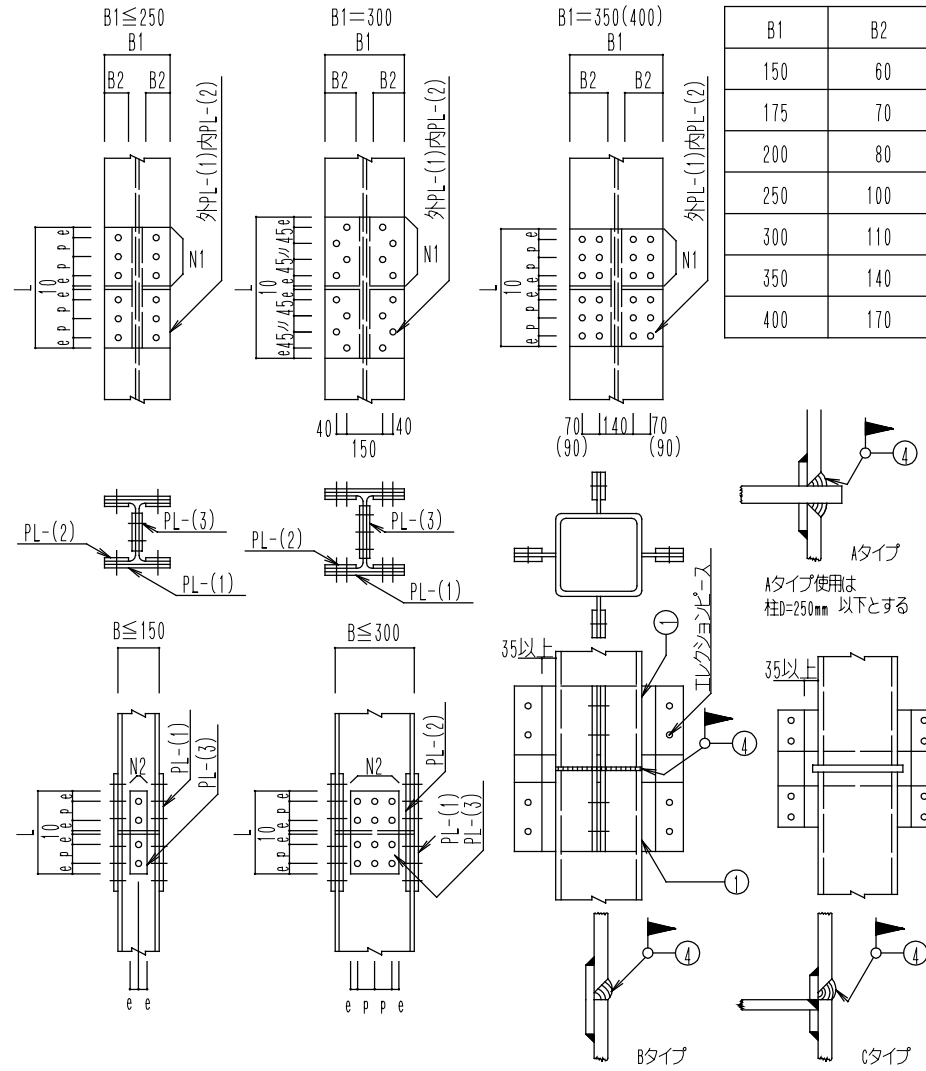
ハンチ勾配は普通:4程度であるが構造図による

フランジ及ウェブ厚のある場合



F11-F12
W1-W2 ≥ 1mm フィラプレート併用のこと

(5) 柱継手リスト



注) 現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%を行う

符号	部材	フランジ			ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径

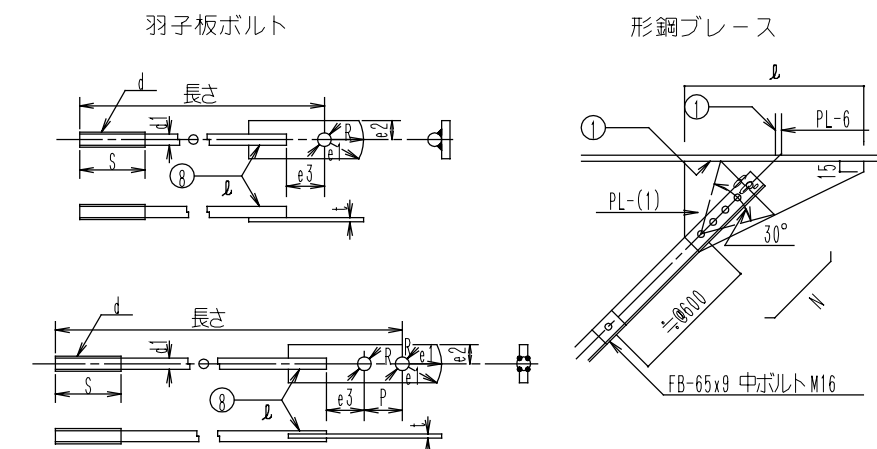
(6) ターンバックルプレース (JIS規格品とする...JISA5540...2008 / 5541...2008)

ねじの呼び(d)		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径d1	最大	10.83	12.66	14.66	16.33	18.33	20.33	22.00
	最小	10.59	12.41	14.41	16.07	18.07	20.07	21.69
調整ねじの長さ S		100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容差 +0, -0.5mm		R	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき(最小) (2) e1		40	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき(最小) (1) e2	28	28	28	34	34	38	38
	板厚 t	6	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき(最小) (1) e2	25.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚 t	6	6	6	9	9	9	9
ボルト頭から取付ボルト穴心のあき(最小) e3		52	52	59	66	66	73	70
溶接長さ(最小) l		40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト(2)	種類	JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T) (3)						
	ねじの呼び	M16	M16	M16	M20	M20	M22	M20
本数		1	1	1	1	1	1	2

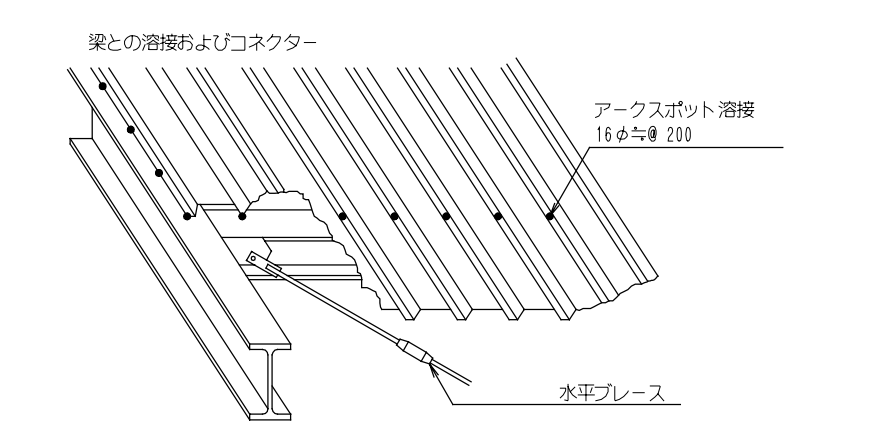
- (注) (1) e1, e2 が確保されていない場合は自由でよい。
 (2) 羽子板とガセットプレートの接合は表示取付ボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする。
 (3) 溶接強めつき製品では、JIS B 1186 に規定する1種FBICに準じるものを使用する。

(b) 形鋼プレース

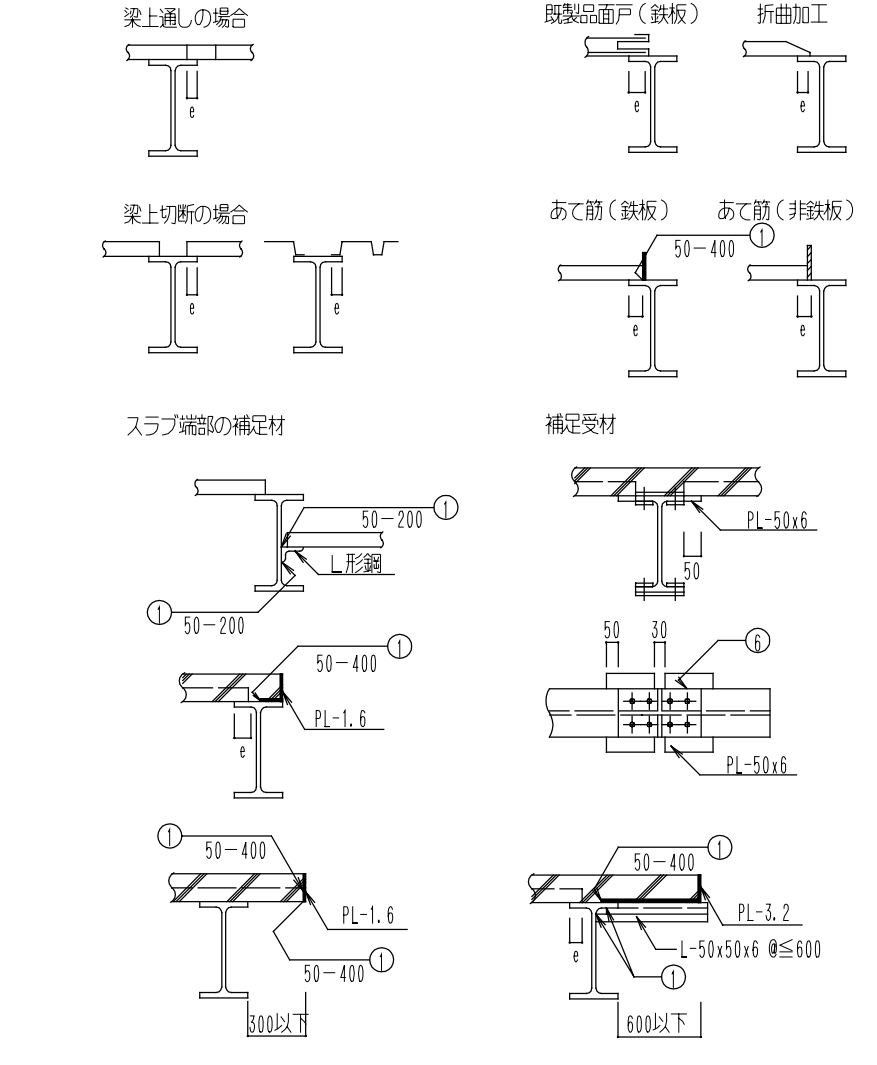
符号	部材	PL-(1)	N-径	L



(7) デッキプレート (床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照)

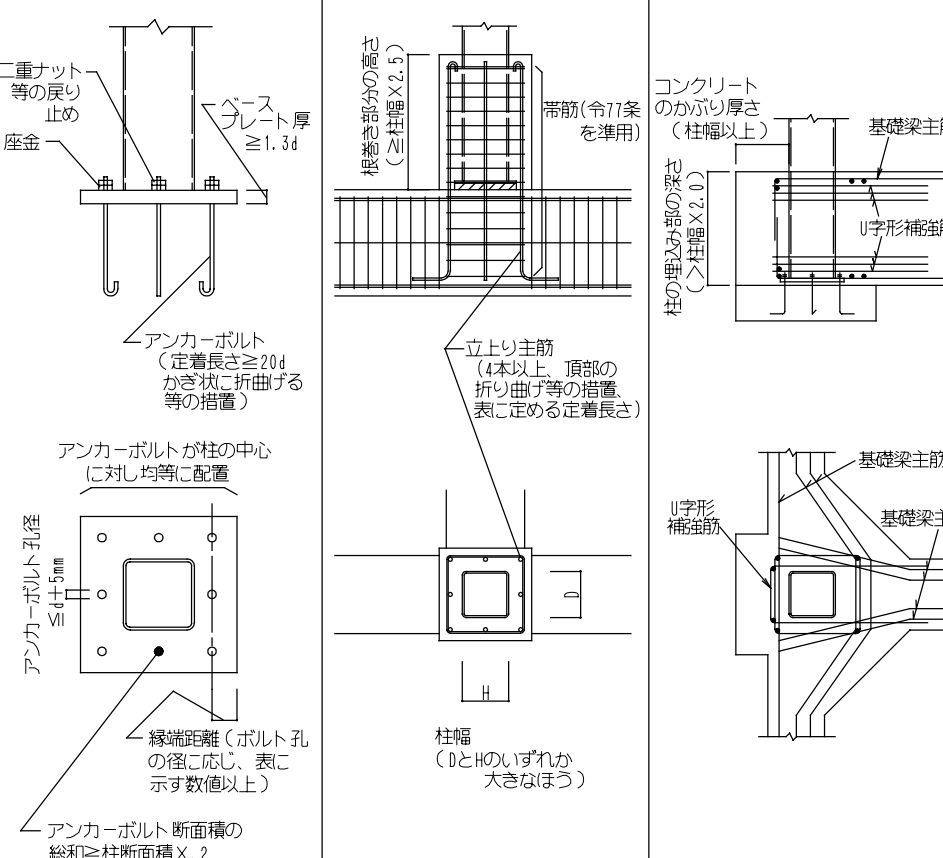


受梁へのかり寸法および端部処理 e: 長手方向で50mm以上、幅方向で30mm以上とする。且つ、各メーカーの仕様による。



(8) 柱脚

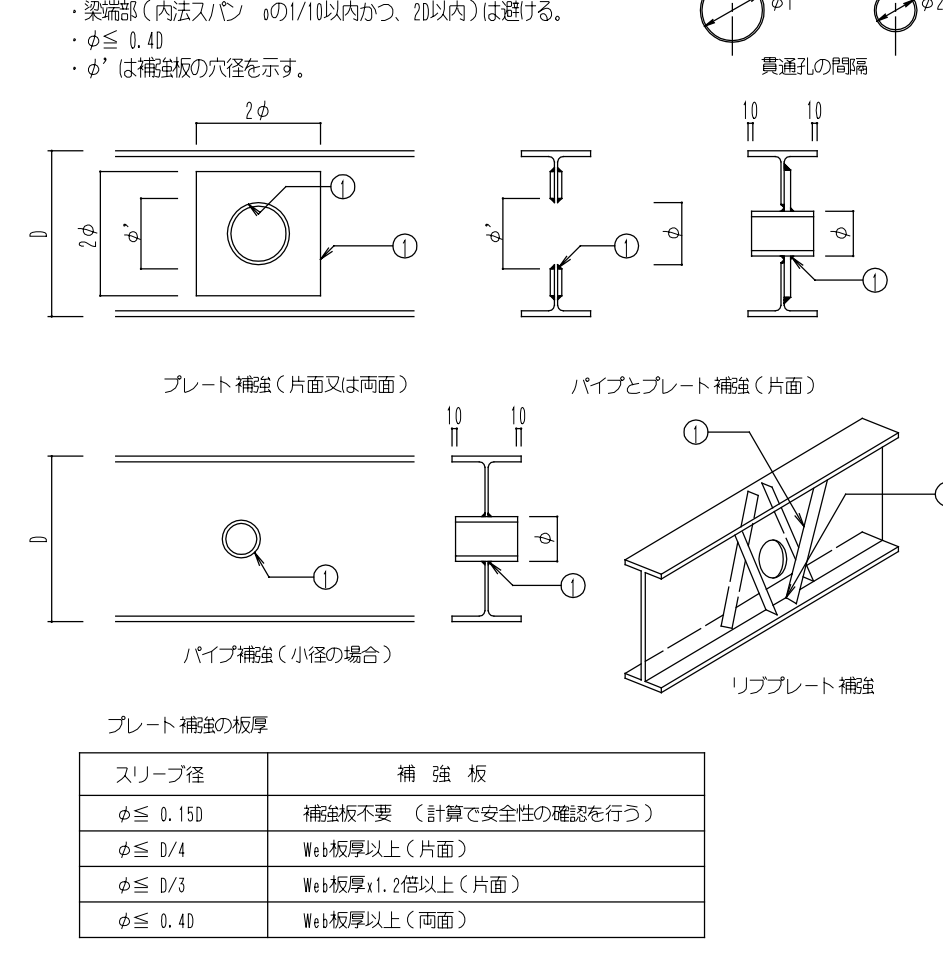
注) 許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式 ※構造用アンカーボルトは原則としてJIS B 1220, JIS B 1221を使用する。

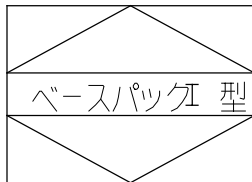


(9) 頭付きスタッド (JIS B 1198~2011)

形状	スタッド材			
	呼び名	軸径d mm	頭径D mm	頭高さT mm
	φ13mm	13	25	8
	φ16mm	16	29	8
	φ19mm	19	32	10
	φ22mm	22	35	10
	φ25mm	25	41	12

(10) 梁貫通補強





角形鋼管
F値295N/mm²以下
□-150×150～□-300×300 用

(一財)日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-18」(令和4年11月17日付)
ベースパック柱脚工法 設計標準図

●ベースパック柱脚工法的设计は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

岡部株式会社 TEL03(3624)5336
旭化成建材株式会社 TEL03(3296)3515
2023年9月作成

1. 工法概要

1.1 構成部材

①アンカーボルト
②注入座金
③Mナット
④ベースパックグラウト(グラウト材)
⑤定着座金
⑥テンプレート

⑦フレームポスト
⑧フレームベース
⑨ステコンアンカー(コンクリートアンカー)
⑩ベースプレート

(注)上記①～⑥の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記⑦～⑩は現場状況により仕様異なる場合がある。

1.2 柱脚の定着方法概要

2. 柱

F値(N/mm ²)	鋼種	採用
235	BCP235	採用
	STKR400	
295	BCR295	採用
	TSC295	

採用	ベースパック 記号	柱		材質	ベースプレート						アンカーボルト		F値(N/mm ²)	コンクリート柱型		フレームベース		最低h寸法	t寸法						
		外径 (mm)	板厚 (mm)		形状	a	t	l1	l2	l3	d	本数-呼び		基準強度 (N/mm ²)	寸法D(mm)	配筋	設計基準強度 (N/mm ²)			寸法W(mm)	寸法X(mm)				
	15-12V	□-150×150	t≤12	SN490B	(イ)	300	28	50	200	-	φ45	4-M27	490	A	500	-	12-D16	D13φ100	21以上	250	-	150	-	550	135
	17-12V	□-175×175	t≤12	SN490B	(イ)	320	32	45	230	-	φ45	4-M30	490	A	530	-	12-D19	D13φ100	21以上	280	-	180	-	600	135
採用	20-09V	□-200×200	t≤9	SN490B	(イ)	360	28	50	260	-	φ45	4-M30	490	A	560	-	12-D16	D13φ100	21以上	310	-	210	-	600	135
	20-12V	□-200×200	t≤12	SN490B	(イ)	360	32	50	260	-	φ50	4-M33	490	A	560	-	12-D19	D13φ100	21以上	310	-	210	-	600	135
	25-09V	□-250×250	t≤9	SN490B	(イ)	420	32	55	310	-	φ55	4-M36	490	A	610	-	12-D19	D13φ100	21以上	360	-	260	-	650	150
採用	25-12V	□-250×250	t≤12	SN490B	(イ)	420	36	55	310	-	φ55	4-M39	490	A	630	-	12-D19	D13φ100	21以上	370	-	270	-	650	150
	25-16V	□-250×250	t≤16	SN490B	(ハ)	450	32	50	80	190	φ50	8-M33	490	C	630	640	12-D19	D13φ100	21以上	240	440	140	300	650	135
	30-09V	□-300×300	t≤9	SN490B	(イ)	480	36	60	360	-	φ55	4-M39	490	A	680	-	12-D22	D13φ100	21以上	420	-	320	-	650	150
	30-12V	□-300×300	t≤12	SN490B	(ハ)	520	32	50	80	260	φ50	8-M30	490	C	700	710	12-D22	D13φ100	21以上	310	510	210	370	650	135
	30-16V	□-300×300	t≤16	SN490B	(ハ)	520	40	50	80	260	φ55	8-M36	490	C	710	710	12-D22	D13φ100	21以上	310	510	210	370	700	150
	30-19V	□-300×300	t≤19	SN490B	(ハ)	550	50	50	80	290	φ55	8-M36	490	C	740	740	12-D22	D13φ100	21以上	340	540	240	400	700	150

3. 構成部材・寸法

3.1 ベースプレート

●材質 SN490B 【JIS G 3136】

形状(イ) 形状(ハ)

3.3 Mナット

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

呼び	A	R	(e)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

3.4 定着座金

i) アンカーフレーム Aタイプの場合

適用 アンカー	e1	t	d	材質
M27	55	9	28	SS400
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

ii) アンカーフレーム Cタイプの場合

適用 アンカー	e1	e2	t	d	材質
M30	55	168	9	32	SS400
M33	60	173	9	35	
M36	65	178	9	38	

3.5 注入座金

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

記号	適用 アンカー	a1	a2	c	t	d
PM27	M27	32	42	101	18	28
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34
PM36	M36	35	45	110	18	37
PM39	M39	38	48	118	18	40

3.2 アンカーボルト (Mアンカーボルト)

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

i) アンカーフレーム Aタイプの場合 ii) アンカーフレーム Cタイプの場合

呼び	異形部 呼び名	L (注1)	X	b (注1)	単位 mm	基準強度 (N/mm ²)
M27	D29	650	45	128	490	21以上
M30	D32	695	45	133		
M33	D35	690, 735	45	95, 140	490	21以上
M36	D38	770	60	130		
M39	D41	770, 810	60	98, 135	490	21以上

注1) 据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

3.6 フレームベース

i) Aタイプ ii) Cタイプ iii) 特Cタイプ

3.7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ(h寸法)はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ(最低h寸法)は下表に記載の値とする。

※抗傾斜まり及び配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。

4. コンクリート柱型

4.1 形状・材質

●形状 形状は正方形とし、寸法は下表に記載の値とする。

呼び	異形部 呼び名	L	X	単位 mm	基準強度 (N/mm ²)
M30	D32	695	45	490	21以上
M33	D35	720	45		
M36	D38	770	60	490	21以上

●コンクリート 普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm²以上とする。

●鉄筋 SD295(D13, D16) SD345(D19, D22)

4.2 配筋

配筋仕様は下表による。

●基礎立上がり 基礎立上がり高さは50mm以下とする。 ※Lシリーズを使用することができる。

●基礎立上がり 基礎立上がり高さが90mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。

4.3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。 ※Lシリーズを使用することができる。

4.4 特記事項

上記内容によらない場合は下記による。

採用

- 下表標準柱型寸法からの変更あり(「柱型寸法最大・最小値一覧」による)
- 下表標準配筋仕様からの変更あり
- 立上り筋に頂部フックが必要

5. 工場製作(溶接)

■組立 ●ベースプレートの中心線(ガキ線)に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法(完全溶込み溶接) ●完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の優先標準 (JASS 6 鉄骨工事 2007年版より)

溶接方法	適用板厚 t(mm)	ルート間隔(mm)		ルート面(mm)		開先角度α(°)		溶接姿勢
		標準値	許容差	標準値	許容差	標準値	許容差	
縦向き	6~	7	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, -1 (-2, +2)	α1: 45	-2.5, +0 (-5, +0)	下向き
		9	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, -1 (-2, +2)	α1: 35		
		7	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, -1 (-2, +2)	α1: 35		
横向き	6~	6	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, -1 (-2, +2)	α1: 45	-2.5, +0 (-5, +0)	下向き
		6	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, -1 (-2, +2)	α1: 45		
		7	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, -1 (-2, +2)	α1: 35		

許容差・記号tは制限無しを示す。
・後者は「鉄骨検査基準」に規定する許容差(上段:管理許容差、下段:検査内:限界許容差)を示す。

■ベースプレートの予熱 ●気温(鋼材表面温度)が9°C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準より行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm)	
		t<32	32≤t≤50
低水素系極低アーク溶接	SN490B	予熱なし	50°C
	SN490B	予熱なし	50°C
ガスシールドアーク溶接	SN490B	予熱なし	予熱なし
	SN490B	予熱なし	予熱なし

■検査方法: 溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。
■施工管理: 7. 本工法の施工及び施工管理参照。

6. 工事場施工

6.1 基礎工事

●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6.2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト(フレーム)の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。
●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。
●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。

アンカーボルト e1: 柱心とテンプレートのけがき線との許容差
-2≤e1≤2
基準高さより誤差は -3≤e≤10

6.3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト(フレーム)との取り合いを考慮する。
●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6.4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト(グラウト材)を使用し、大きさは右図による。

6.5 アンカーボルトの本締め(弛み止め)

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6.6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(6kg)に対して、計量カップで1.0~1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。
●グラウト材の注入は、グラウトローを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7. 本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者(元請)の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6. 2アンカーボルト据付け及び6. 6ベースパックグラウトの注入は、ベースパック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者(ベースパック施工管理技術者・施工技能者)が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

1. NDコア仕様

部材記号	長さ(mm)	設計記号※1	数量(個)	斜め切断(勾配)
□ND150 □ND175 ●ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400	510	ND200-450	2	●斜め切断 (17.88)度 寸
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				□斜め切断 ()度 寸
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				□斜め切断 ()度 寸
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				□斜め切断 ()度 寸
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				□斜め切断 ()度 寸
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				□斜め切断 ()度 寸
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				□斜め切断 ()度 寸
□ND150 □ND175 □ND200 □ND250 □ND300 □ND350 □ND400				□斜め切断 ()度 寸

※1 設計記号は、部材記号・長さ(mm)で記入する。(例)ND300-600、ND200-550

(1) NDコアの形状寸法および重量

部材記号	外径φ (mm)	公差	板厚t (mm)	単位質量 (kg/m)	長さ範囲※3 (mm)	材質	断面形状※4
ND150	152		16.5	69.8	150~+3.0 -0	SN490B SN490B-ND SN490B-ND	ND150~ND200
ND175	177	+2.0 -2.0	17.0	85.1			
ND200	202		22.0	124			
ND250	252		24.0	184			
ND300	302		29.0	265			
ND350	352		33.8	360			
ND400	402		38.6	470			

※2 コラムとの食い違い防止のため、NDコアの外径φを基準寸法としている。

※3 NDコアの長さは1.0mmピッチで対応。

※4 NDコア前面には溶接レートの盛り上がりがあるため、はり取付時はグラインダで仕上げをするかもしくははりウェブを切り欠くなど適切に処置すること。

※5 NDコアの角部に突起が生じてはりと干渉する場合、はり取付時にグラインダで仕上げをするなど適切に処置すること。

※6 SN490B-ND 日本産業規格 JIS G 3136 (建築構造用圧延鋼材) 2012の形状、寸法、質量およびその許容差には適合していないが、当該 JIS に示される SN490B の化学成分、6 炭素当量及び溶接性、感受性組成、機械的性質、10 外観、11 試験、12 検査、13 再検査の各規定に適合している。

※7 NDコアの表面に錆が発生していることがあります。はりと溶接部で交差する錆は除去して下さい。

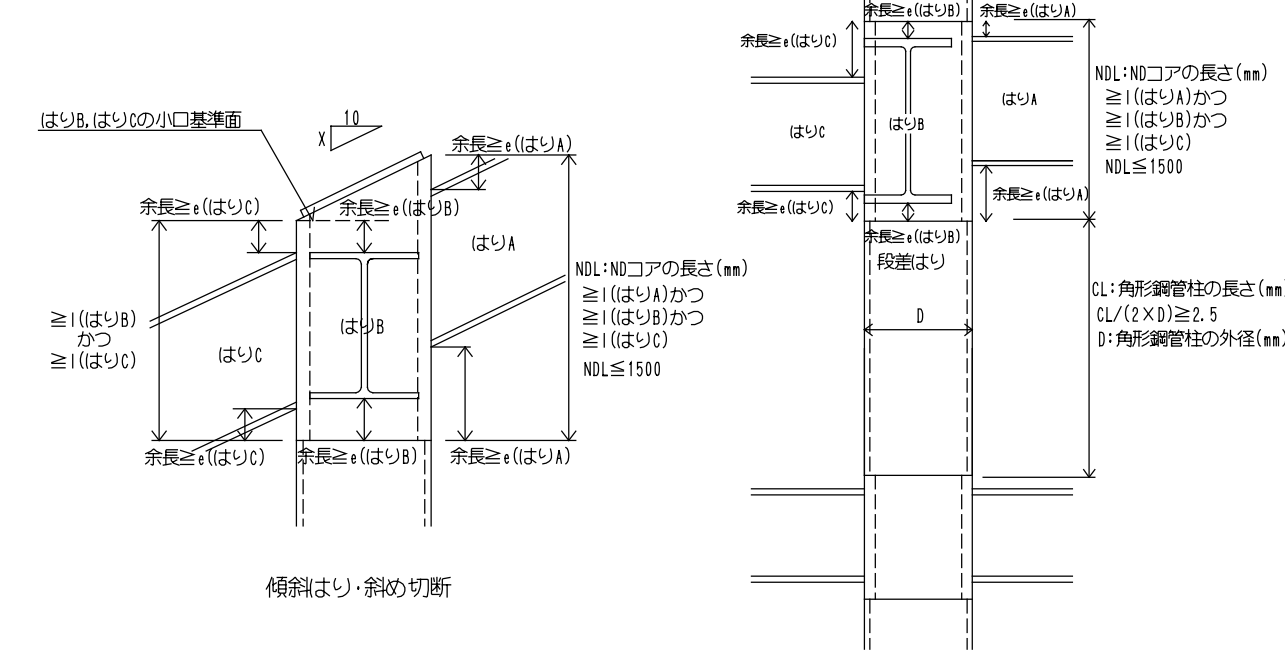
(2) 適用する柱およびはり材

- a) 適用する柱材の材質および規格
- ・建築構造用冷間成形角形鋼管 BCR295
 - ・一般構造用角形鋼管 (JIS G 3466) STRK400
- b) 適用するはり材の材質および規格: 下記規格のH形鋼
- ・建築構造用圧延鋼材 (JIS G 3136) SM400B, C
 - ・一般構造用圧延鋼材 (JIS G 3101) SS400
 - ・溶接構造用圧延鋼材 (JIS G 3106) SM400A, B

2. NDコア仕様の決め方

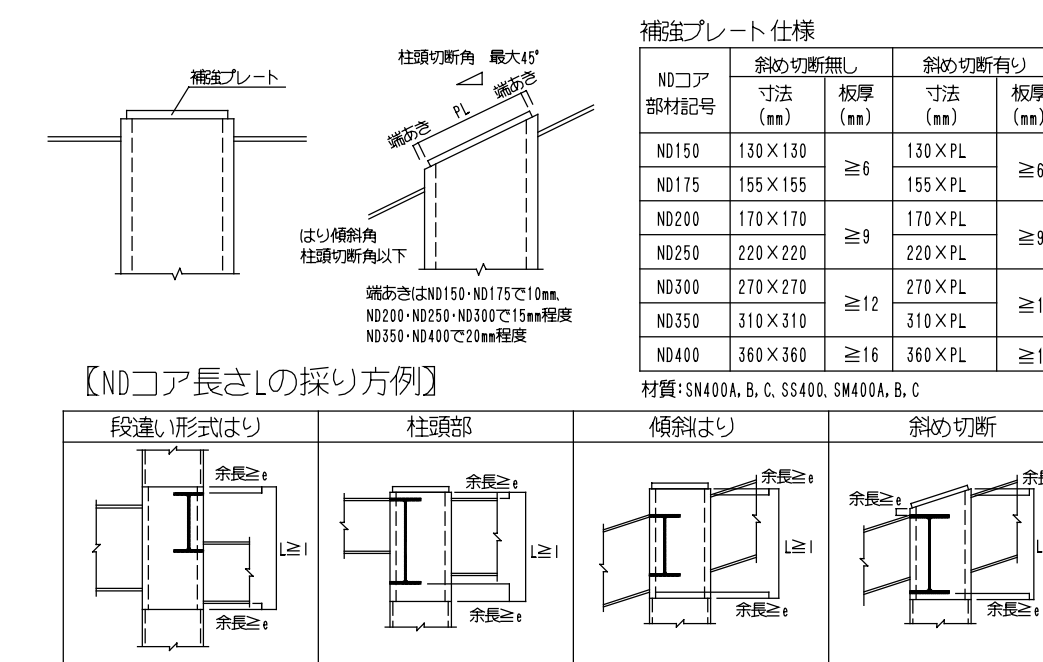
(1) NDコア長さLの設定方法と注意点

- a) NDコアの長さLは、取付く各はり(最大で4方向)全てに対して、最小余長 e を確保し、かつ最小長さL以上となるようにする。
 最小余長 e 、最小長さLは柱よりの組合せで決まっている寸法であり「設計・施工標準仕様書【柱より組合せ編】」を参照する。
 b) はりに傾斜がある場合には、はり取り付け部の長さの増加を加えてNDコア長さを設定すること。
 c) 柱頭部上部を斜め切断仕様とする場合は、それぞれの接合面に対応する小口において、最小余長 e 、最小長さLを確保する。
 小口が傾斜している面では、低い位置を基準として最小余長 e 、最小長さLを確保する。
 d) 柱頭部の斜め切断の勾配は45°(10寸勾配)以下とする。(斜め切断は一方のみとし、部分切断は不可)
 e) NDコアは厚肉鋼管のため角形鋼管柱より剛性が大きい特徴があります。層ご占めるNDコア全長の割合が大きい場合、曲げとせん断力の比率に応じ、柱の変形性能が変わります。そのため評定CBLSS08-19の適用範囲において柱せん断スパン比は2.5以上、NDコアの長さは1500mm以下となっております。



(2) 柱頭部仕様

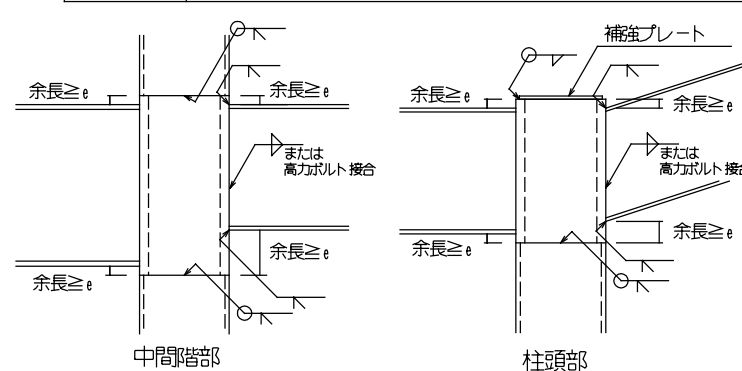
- a) 柱頭部では、NDコア小口面下表に示す補強プレートを取り付けること。
 b) 柱頭部を斜め切断する場合は、片流れの切断とし、切断角度は45°以下とする。
 (斜め切断は一方のみとし、部分切断は不可)
 c) 柱頭部を斜め切断した場合は、はりの傾斜は切断角度以下とする。
 d) どぶ付けめっきのため補強プレートに開口を設ける場合は、断面欠損を考慮し、板厚を割増すことが望ましい。



3. 鉄骨躯体の設計方法

- a) NDコアは柱・はり組合せ表の範囲において柱・はりに対して、許容応力度設計、保有耐力接合条件を満足しており、あらためて接合部の検証は不要である(【柱より組合せ編】参照)。
 b) NDコアを用いた柱より接合部では、通しダイヤフラム形式の架構と同様に節点を剛とし、柱およびはりを線材置換して、鉄骨フレームの設計を行うことができる。
 c) NDコアを用いた柱およびはり等の鉄骨フレームの設計については、下記の規準等によるものとし、通常の設計フローに従って、部材の設計、架構解析、耐力の確認等を行う。ただし、ルート3を用いて設計をする場合、NDコアは適用範囲においてパネル崩壊とならないため、柱より耐力比から崩壊形を判定して保有耐力の検討を行う。
 ・平成20年5月23日施行改正建築基準法
 ・平成19年国土交通省告示第593号、第594号、第595号、第596号
 ・(一財)日本建築センター「2020年版建築物の構造関係技術基準解説書」
 ・同「2018年版冷間成形角形鋼管設計・施工マニュアル」

ルート1-1	通しダイヤフラム形式のBCR295と同様にフレーム設計が可能。
ルート1-2	
ルート2	
ルート3	通しダイヤフラム形式のBCR295と同様にフレーム設計が可能。ただし、NDコア使用部においてパネル崩壊が生じないため、柱より耐力比から崩壊形を判定して、フレーム設計を行う。崩壊形の判定に影響しない。柱頭部については、特別な検証は不要である。



4. NDコア鉄骨製作要領

(1) 鉄骨製作方法

- a) NDコアと柱およびはりの接合は鉄骨製作業者が行い、施工管理は鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者が行う。鉄骨製作に関し特に確認すべき事項については「NDコア鉄骨加工要領書」に示す。
 b) 記載なき事項については、(一社)日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS6鉄骨工事」、同「鉄骨工事技術指針」、および(一財)日本建築センター「2018年版冷間成形角形鋼管設計・施工マニュアル」による。

(2) 接合方法

- a) NDコアと柱およびはりフランジとの接合は完全溶け込み溶接とし、NDコアとはりウェブとの接合は隅肉溶接または高力ボルト接合とする。
 b) NDコアとはりの接合はNDコア小口面から余長 e 以上を確保して接合する。余長 e は別紙「柱より対応表」にて特記の無い限りは25mmとする。
 c) NDコアは、NDコア小口面から余長 e を除いた全ての部分ではりの取り付けが可能だが、はり外面合せの場合、NDコアの角部分と裏当て金に隙間が生じたときは、隙間を溶接で埋めて本溶接を行う等適切に処置する。
 d) NDコアとはりとの接合の際、NDコア製作時の溶接余盛とはりが接触する場合は、グラインダで平滑に仕上げる等適切に処置する。

(3) 柱頭部補強プレート取り付け方法

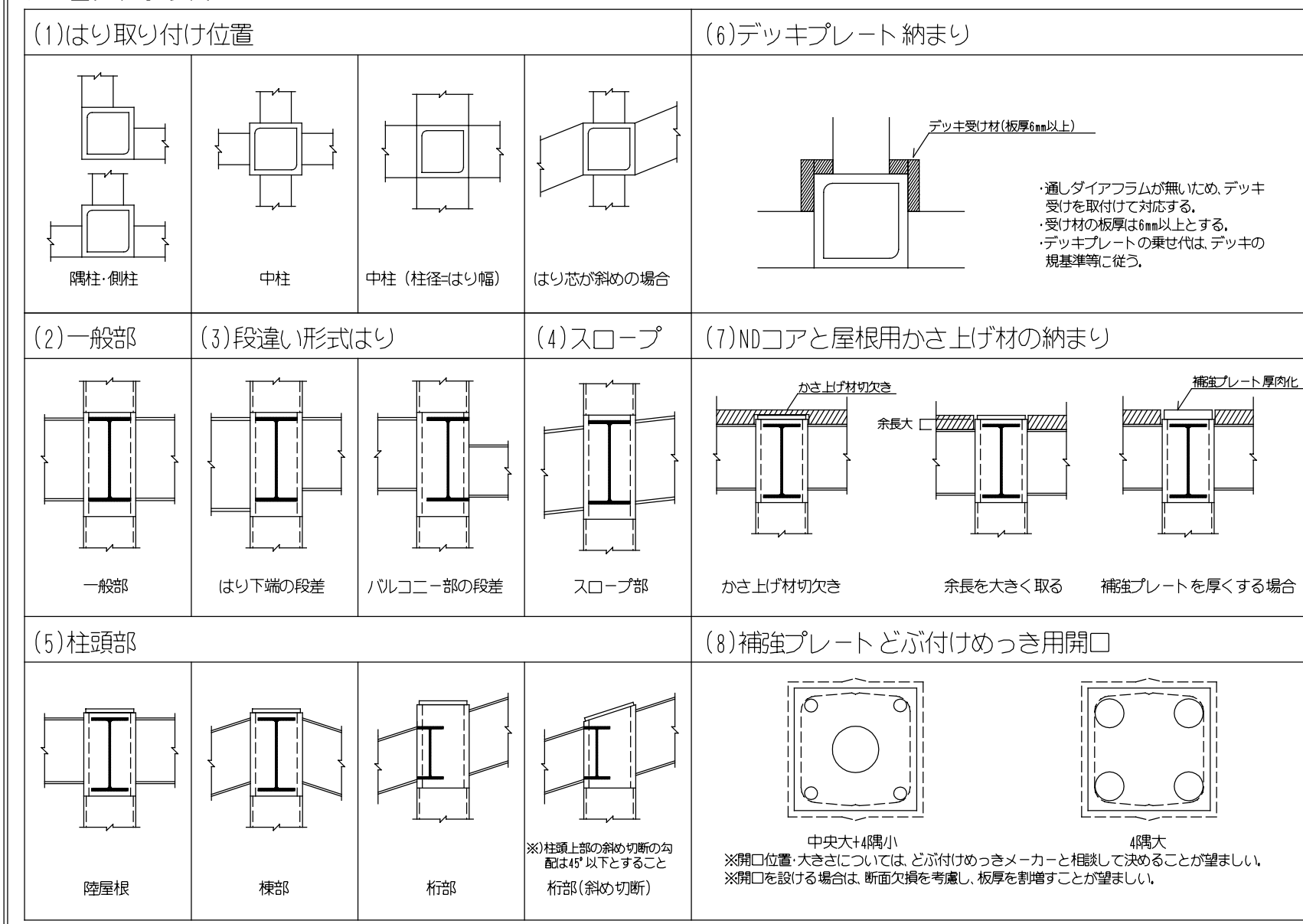
- a) 柱頭部は、NDコア小口面に右表に示す仕様の補強プレートを全周隅肉溶接より取り付ける。
 b) 全周隅肉溶接は右表に示す溶接サイズで、490級の溶接ワイヤを用いて行う。
 c) 柱頭部を斜め切断すると、NDコア小口面の長さが増加するため、右図を参考に、実状に合わせて補強プレートを準備する。

補強プレート取り付け仕様

NDコア部材記号	斜め切断無し		斜め切断有り		隅肉溶接仕様 溶接サイズ (mm)
	寸法 (mm)	板厚※ (mm)	寸法 (mm)	板厚※ (mm)	
ND150	130×130	≥6	130×PL	≥6	≥6
ND175	155×155	≥6	155×PL	≥6	≥6
ND200	170×170	≥9	170×PL	≥9	≥9
ND250	220×220	≥9	220×PL	≥9	≥9
ND300	270×270	≥12	270×PL	≥12	≥12
ND350	310×310	≥12	310×PL	≥12	≥12
ND400	360×360	≥16	360×PL	≥16	≥16

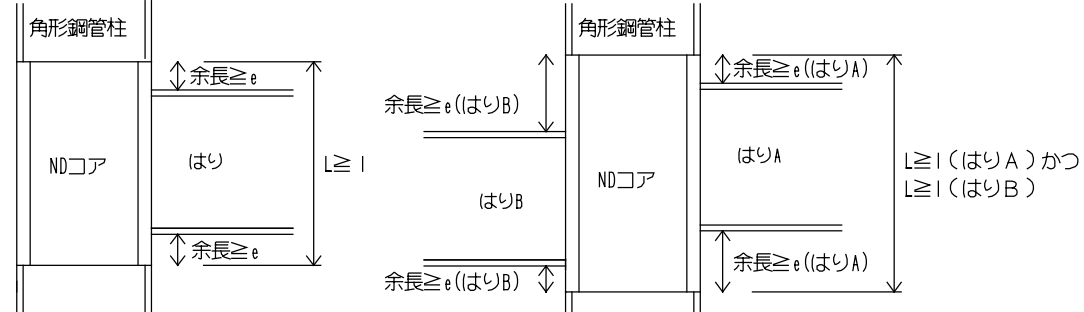
材質: SN400A, B, C, SS400, SM400A, B, C
 ※ 角落し防止のため、板厚は1サイズアップを推奨する。

5. NDコア納まり例



1. 表の見方 使用する柱(横軸) はり(縦軸)を選択し、NDコアの必要最小長さlと余長の必要最小長さeを確認する ※1 記載の無い場合は25mmとする。記載がある場合、数値以上の余長を確保する。

- ・柱材:BCR295およびSTKR400の冷間コールド成形角形鋼管
・はり材:400級(SS400, SM400, SN400B-C等)のJIS G 3192記載のH形鋼
・NDコア長さL:NDコアの長さ
・最小長さl:柱はり組合せで決まるNDコアの最小長さ
・余長e:NDコア小口面から はりフランジ端面までの距離
・最小余長e:確保する余長の最小値



2. NDコアの形状および寸法

Table with columns: 部材記号, 外径, 公差, 板厚, 単位質量, 長さ範囲, 材質, 断面形状. Lists specifications for ND150, ND175, ND200, ND250, ND300, ND350, ND400.

- ※2 コラムとの食い違い防止のため、NDコアの外径Bを基準寸法としている。
※3 NDコアの長さは1.0mmピッチで対応。
※4 NDコア側面には溶接ビードの盛り上がりがあるため、はり取付時はグラインダで仕上げをするか、もしくははりウェーブを切り欠くなど適切に処置すること。
※5 NDコアの角部に突起が生じてはりと干渉する場合、はり取付時グラインダで仕上げをするなど適切に処置すること。
※6 SN490B-ND 日本産業規格JIS G 3136(建築構造用圧延鋼材)2012の9形状、寸法、質量およびその許容差には適合してないが当該JISに示されるSN490Bの4化学成分、6炭素当量及び溶接割れ感受性組成、7機械的性質、10外観、11試験、12検査、13再検査の規定に適合している。

3. 注意点

- ・組合せ表の最小長さl、最小余長eは、はりの短期降伏耐力をはり全断面を有効として設定している。
・NDコアの標準的な納まり等は、「NDコア設計・施工標準仕様書【基本仕様編】」に記載している。
・NDコアの表面に錆が発生していることがあります。はりとの溶接時ご乗乗となる錆は除去して下さい。

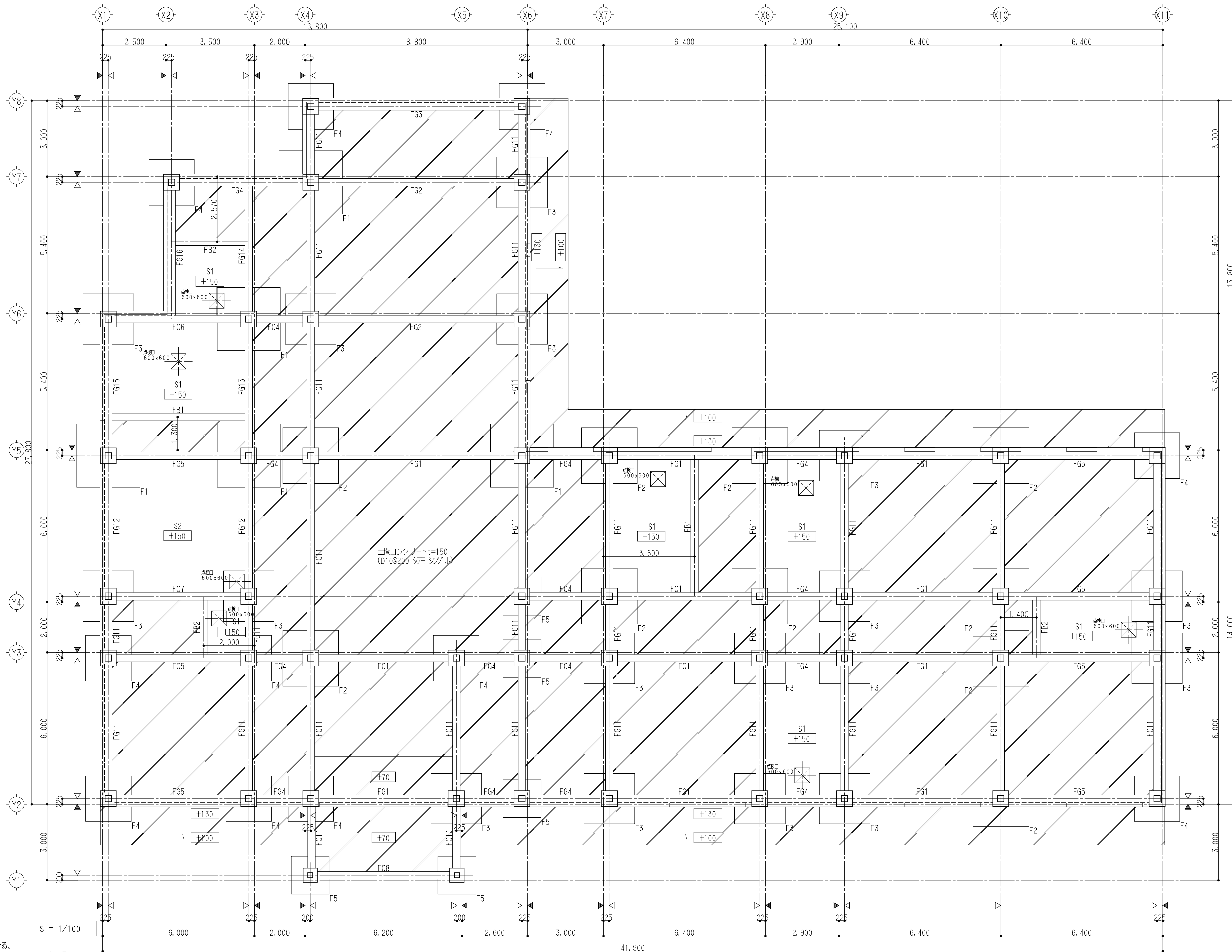
4. NDコア最小長さlと余長e ※最小余長eに記載の無い場合は25mmとする。記載がある場合は、数値以上の余長を確保する。

4-1. ND150~ND200 ※表中のNG範囲は適用不可。

Main table for ND150-ND200 showing dimensions for various column and beam combinations. Includes columns for ND150, ND175, and ND200 with sub-columns for different materials and thicknesses.

4-2. ND250~ND350

Main table for ND250-ND350 showing dimensions for various column and beam combinations. Includes columns for ND250, ND300, and ND350 with sub-columns for different materials and thicknesses.



基礎伏図 S = 1/100

- 特記なき限り下記による。
 1) 基礎梁天端レベルは、SGL-200 とする。
 2) 土間コン天端レベルは、SGL+150 とする。
 3) 梁天端より土間コン下端まで増し打ちとする。

◁	柱 芯
◀	壁 芯

松本設計構造株式会社一級建築士事務所
 一級建築士事務所 東京都知事登録 第 61848 号
 一級建築士(大臣)登録 第 361669 号 澤井 克美

(仮称) 手代森保育園計画 その2

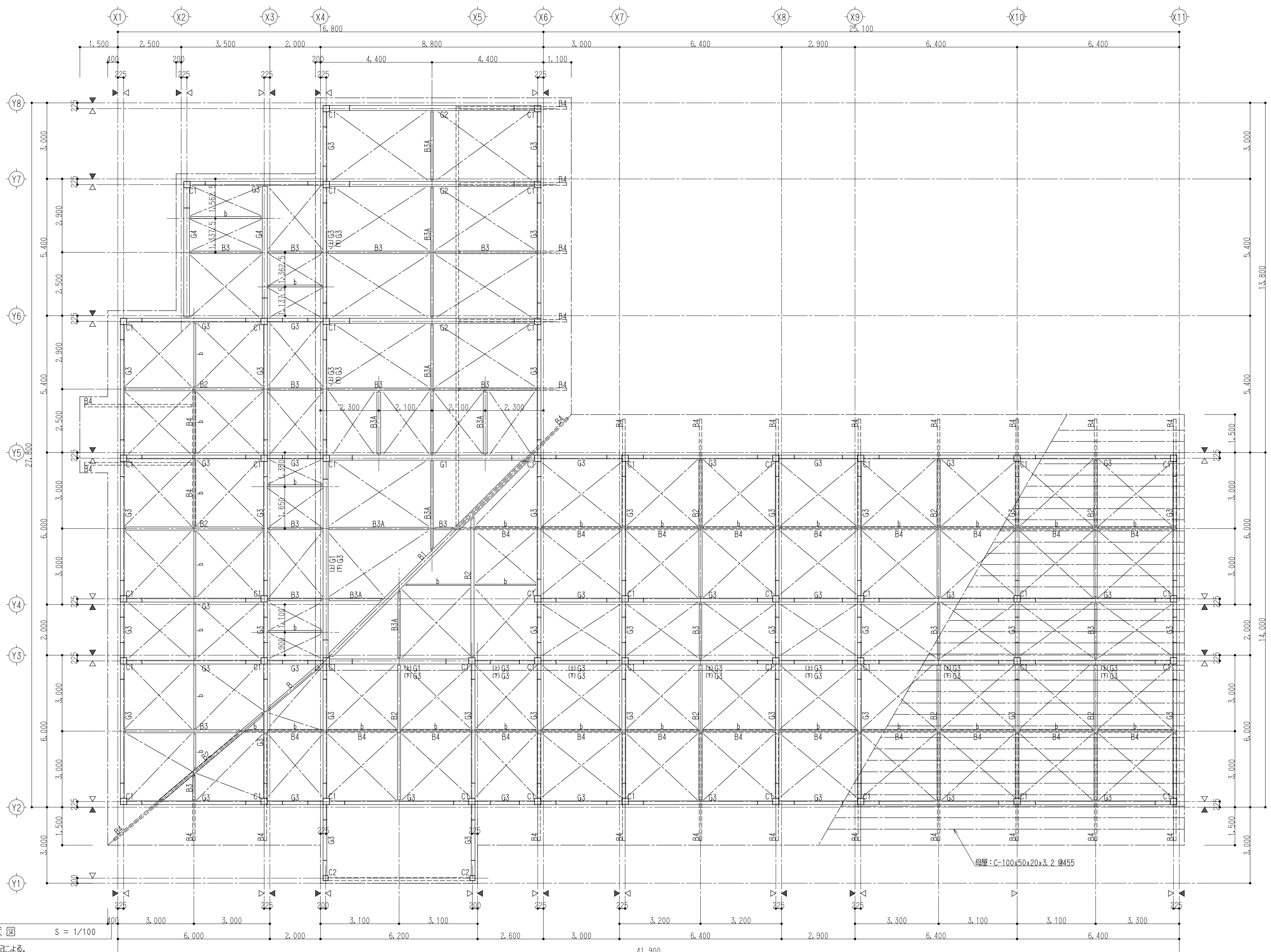
基礎伏図

SCALE S=1/100(A2) No. S-01

株式会社 都志デザイン

一級建築士 東京都知事登録第 44235 号
 一級建築士 122624 号 馬場 正三

2025. 02. 17



R階梁伏図 S = 1/100

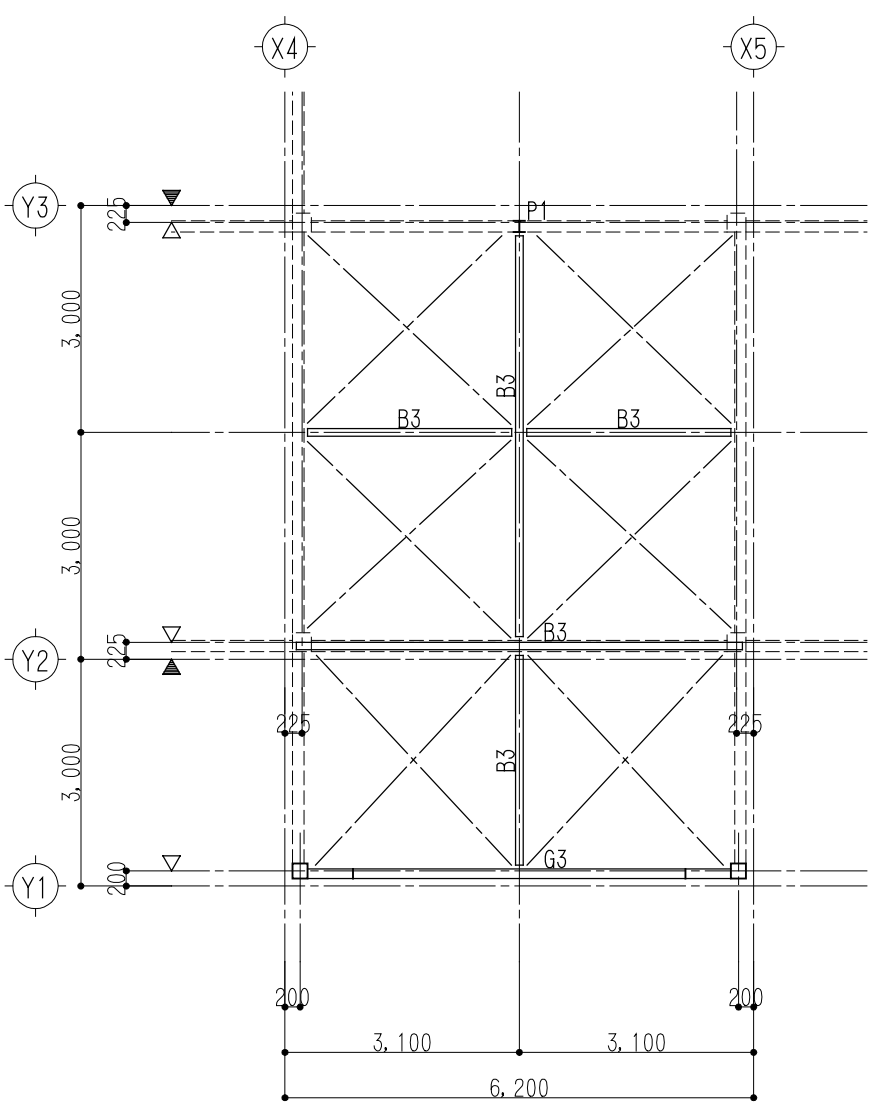
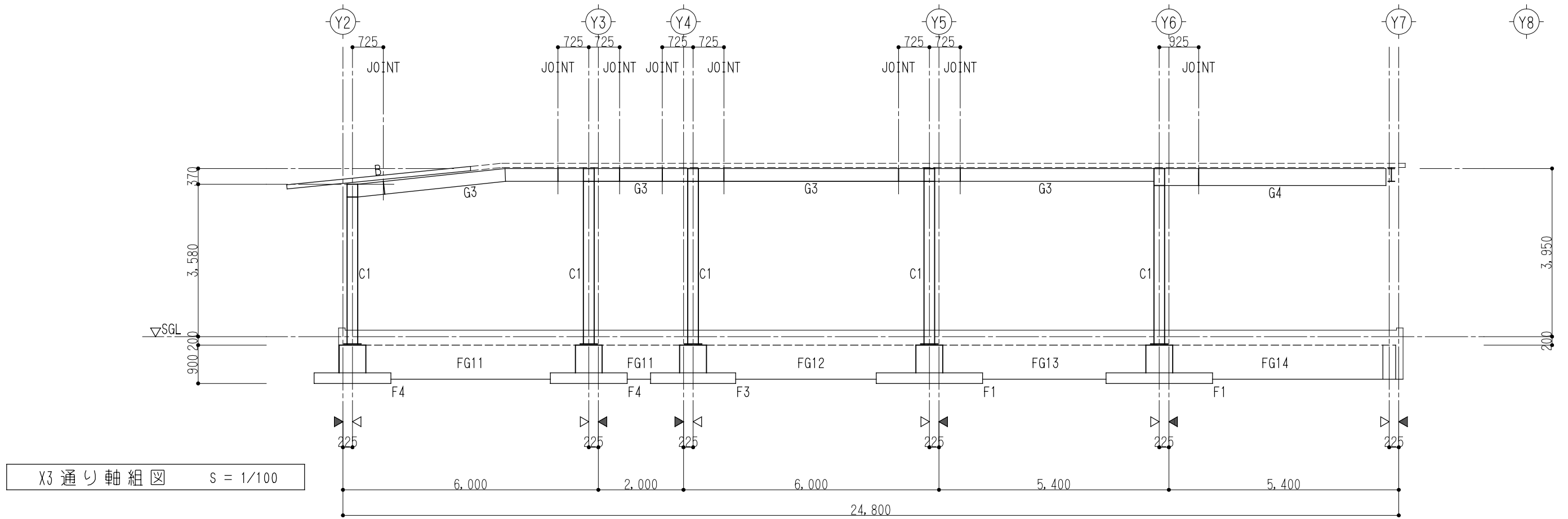
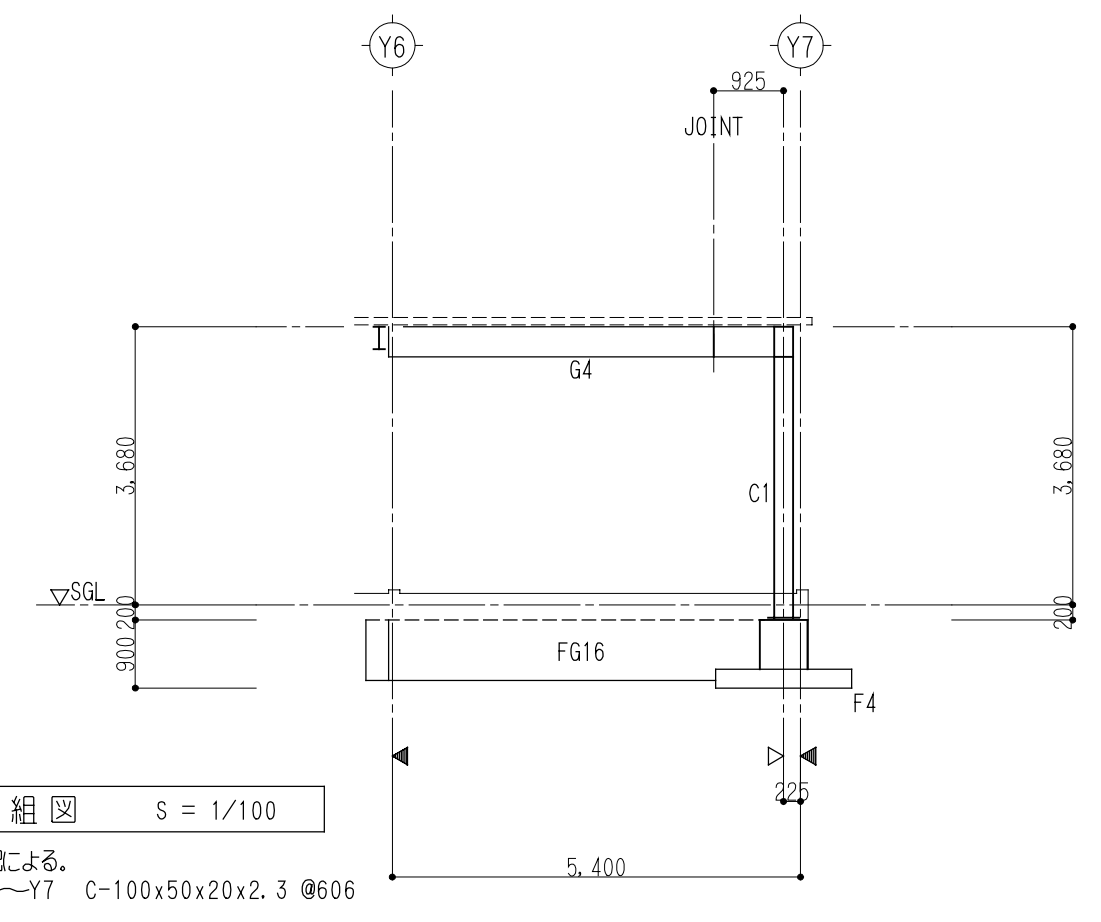
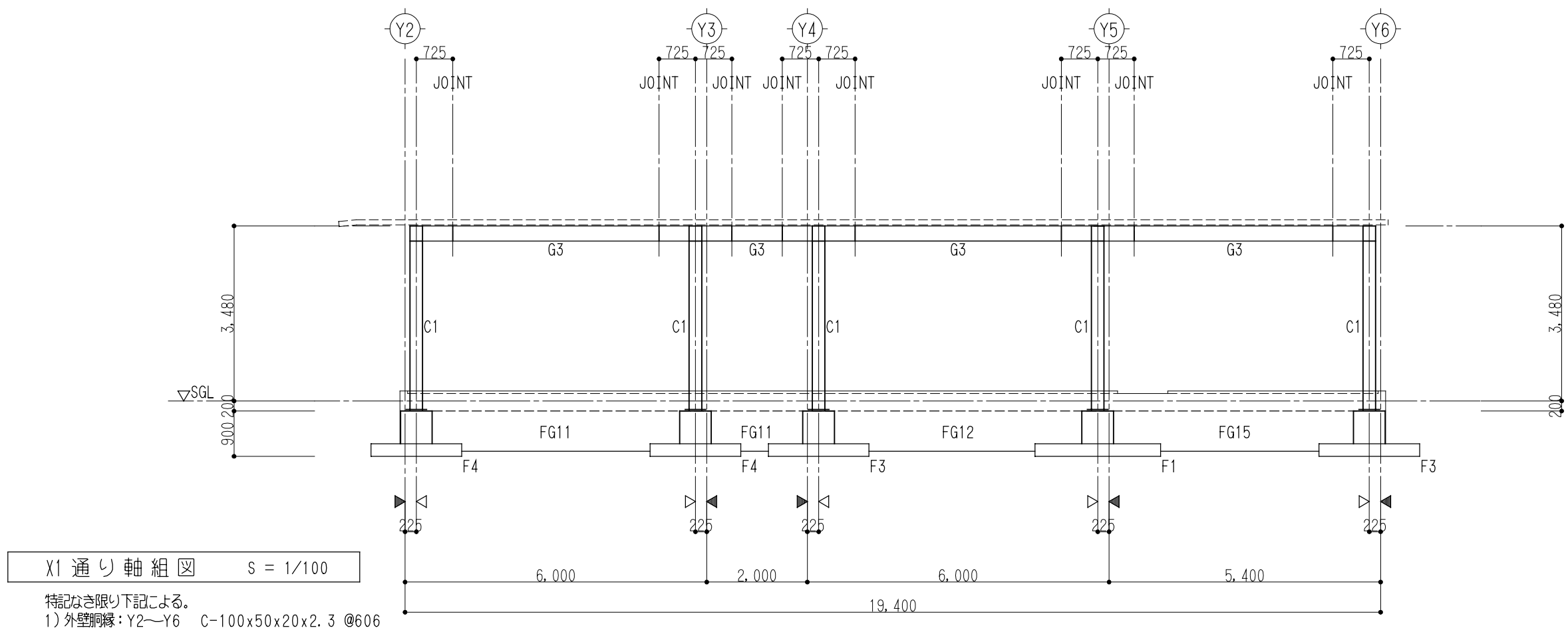
特記なき限り下記による。
1) 水平プレスは、1-M12とする。

▽	柱芯
▲	壁芯

松本設計構造株式会社一級建築士事務所
一級建築士事務所 東京都知事登録 第 61848 号
一級建築士(大臣)登録 第 361669 号 澤井 克美

(仮称) 手代森保育園計画 その2

R階梁伏図		SCALE S=1/100(A2)	No. S-02
株式会社 都志デザイン	一級建築士 東京都知事登録第 44235 号 事務所登録 一級建築士 122624 号 馬場 正三	2025. 02. 17	

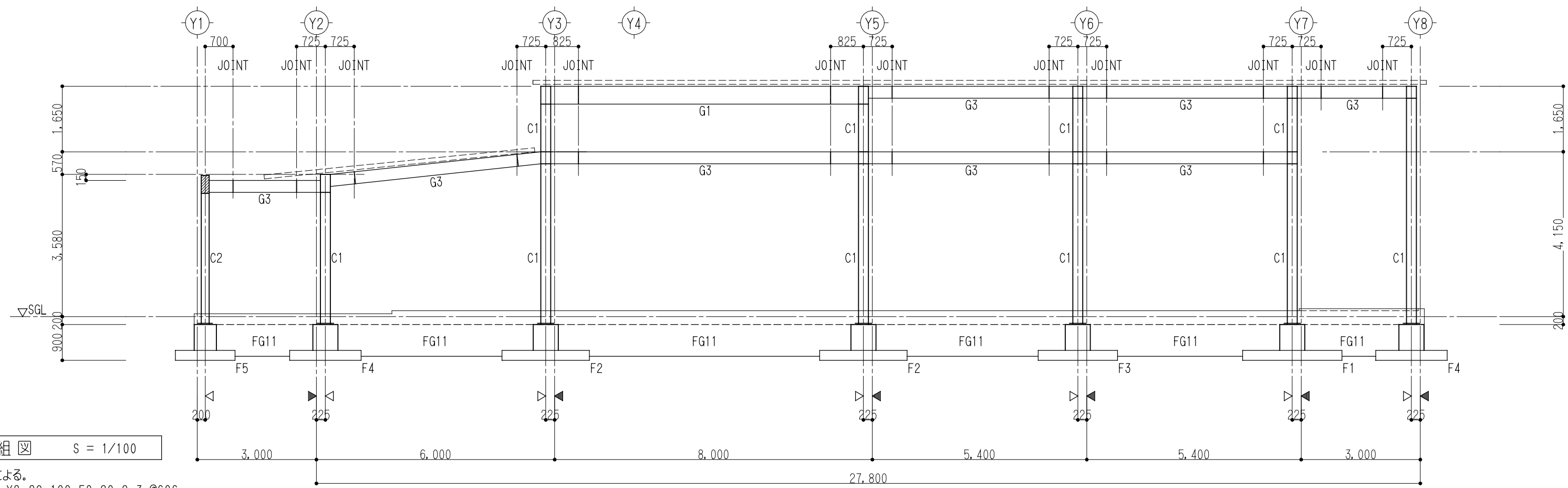


- 凡例
 ◁ 柱芯
 ◀ 壁芯

松本設計構造株式会社一級建築士事務所
 一級建築士事務所 東京都知事登録 第 61848 号
 一級建築士(大臣)登録 第 361669 号 澤井 克美

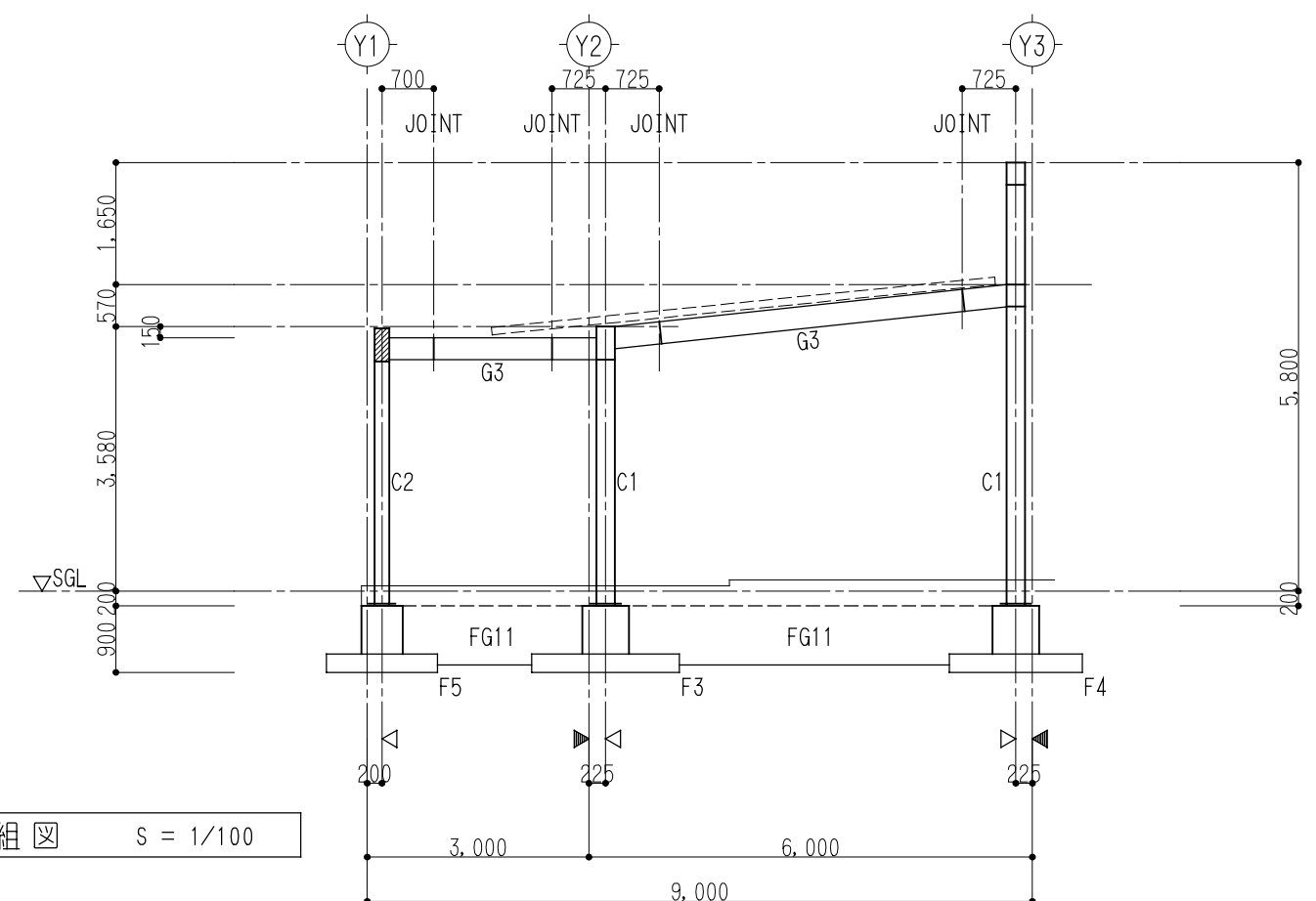
(仮称) 手代森保育園計画 その2

ドーム梁伏図・軸組図(1)		SCALE S=1/100(A2)	No. S-03
株式会社 都志デザイン	一級建築士 東京都知事登録第 44235 号 一級建築士 122624 号 馬場 正三	2025. 02. 17	

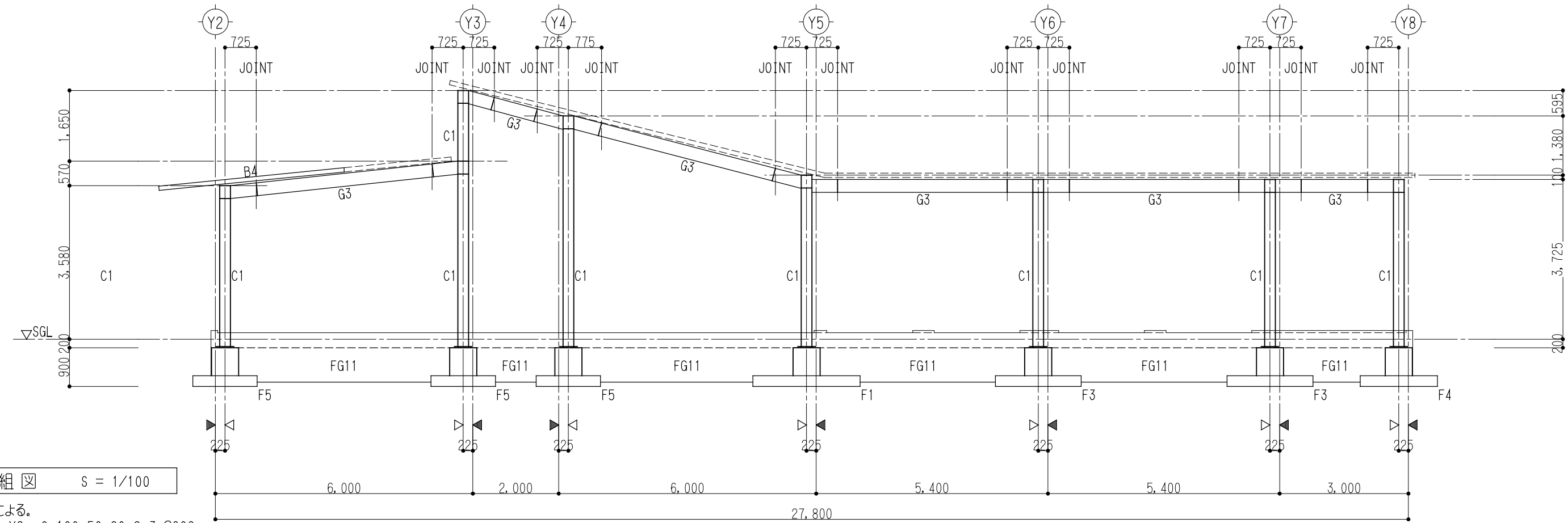


X4 通り軸組図 S = 1/100

特記なき限り下記による。
1) 外壁鋼線: Y7~Y8 2C-100x50x20x2.3 @606



X5 通り軸組図 S = 1/100



X6 通り軸組図 S = 1/100

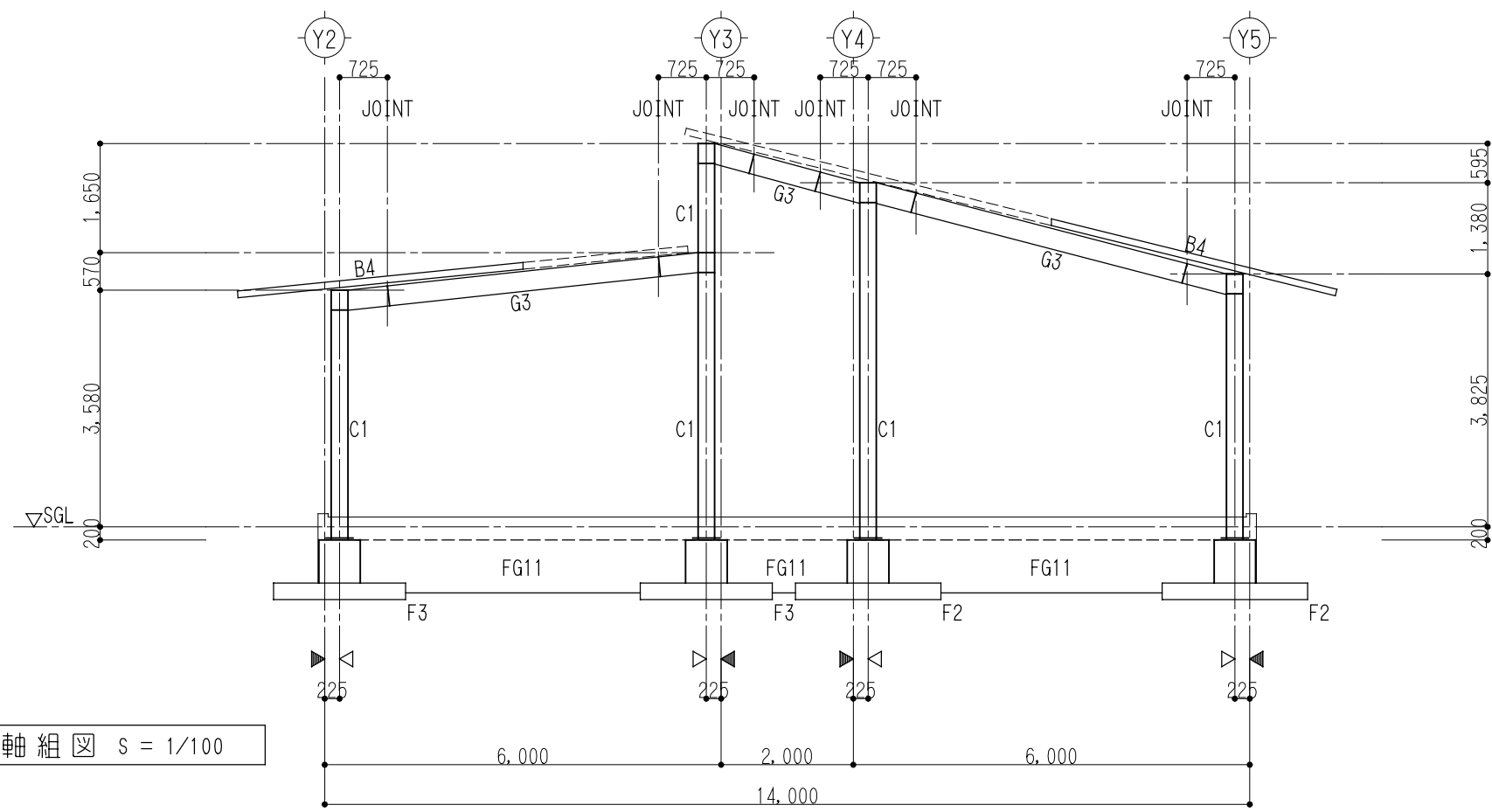
特記なき限り下記による。
1) 外壁鋼線: Y5~Y8 C-100x50x20x2.3 @606

凡例
◁ 柱芯
◀ 壁芯

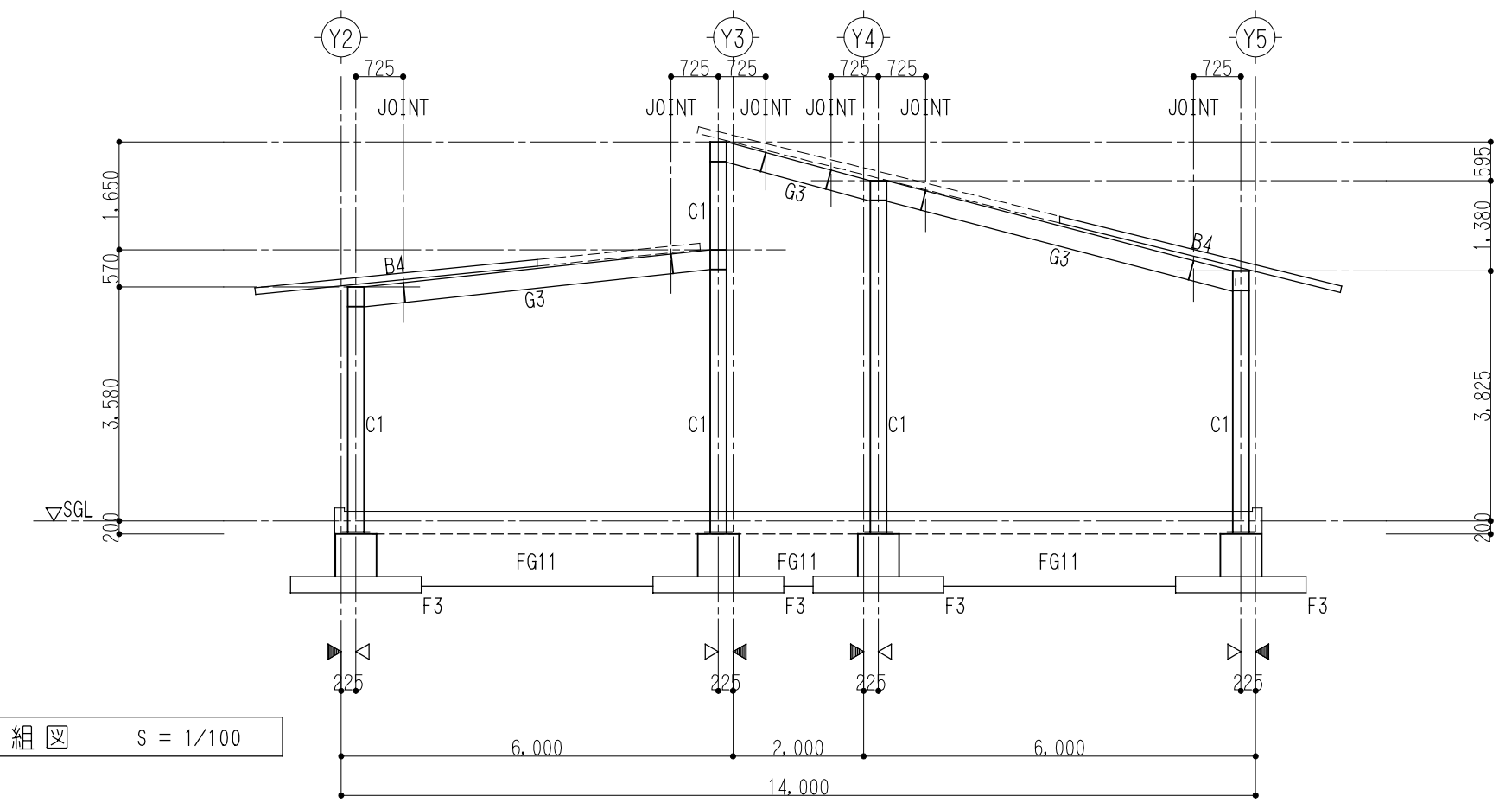
松本設計構造株式会社一級建築士事務所
一級建築士事務所 東京都知事登録 第 61848 号
一級建築士(大臣)登録 第 361669 号 澤井 克美

(仮称) 手代森保育園計画 その2

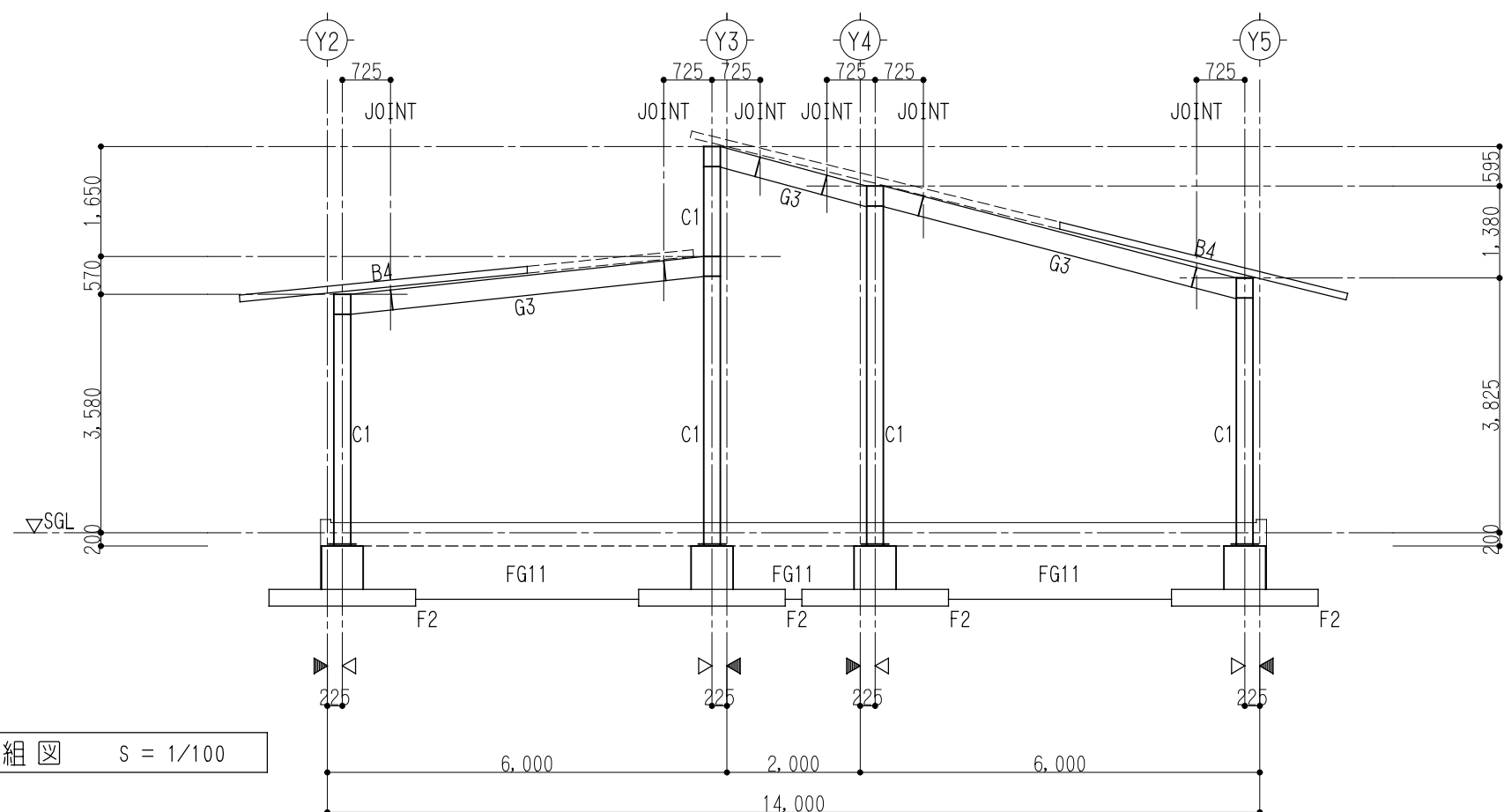
軸組図(2)		SCALE S=1/100(A2)	No. S-04
株式会社 都志デザイン		一級建築士 事務所登録 東京都知事登録第 44235 号 122624 号 馬場 正三	2025. 02. 17



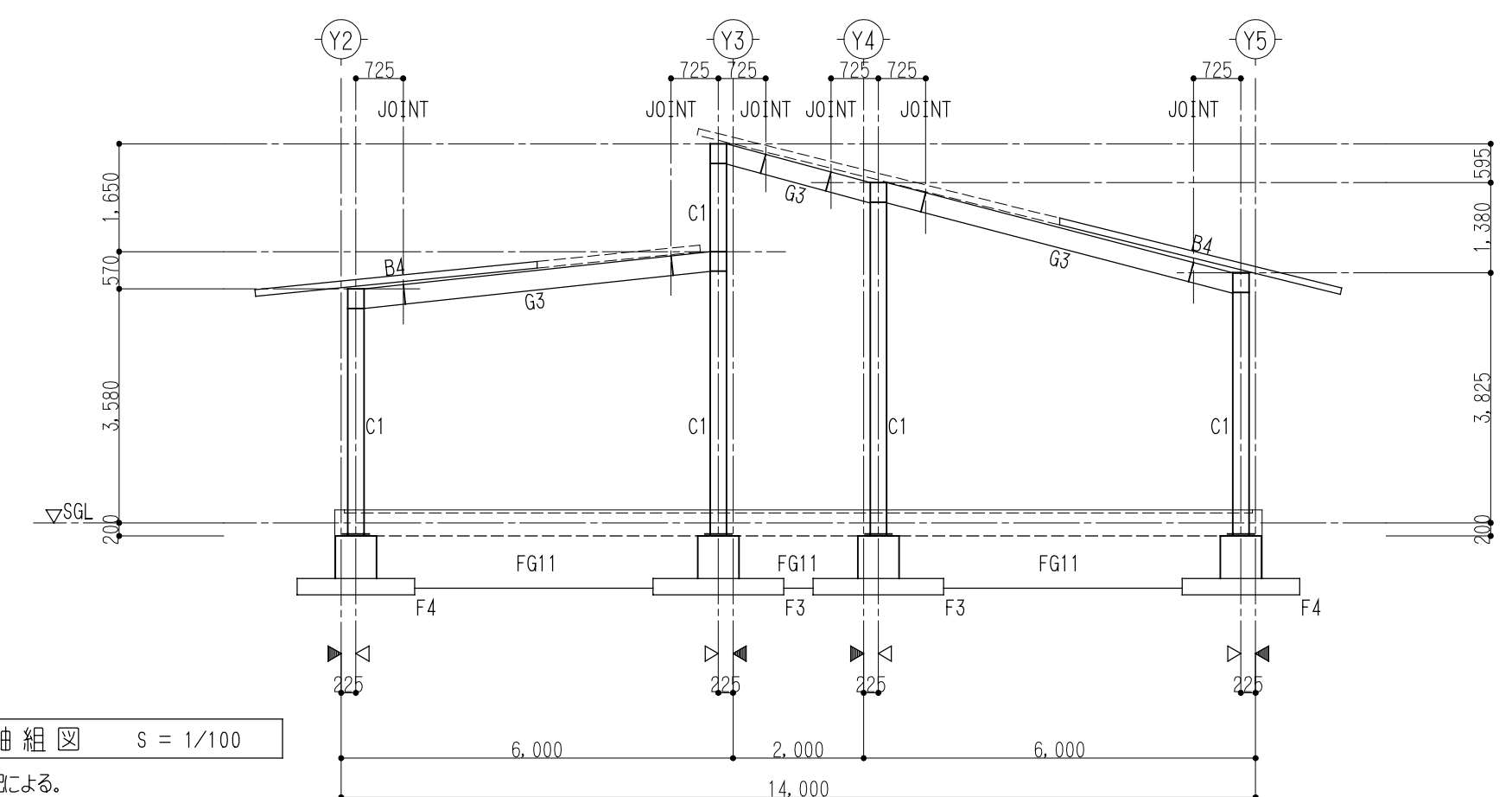
X7・X8 通り軸組図 s = 1/100



X9 通り軸組図 s = 1/100

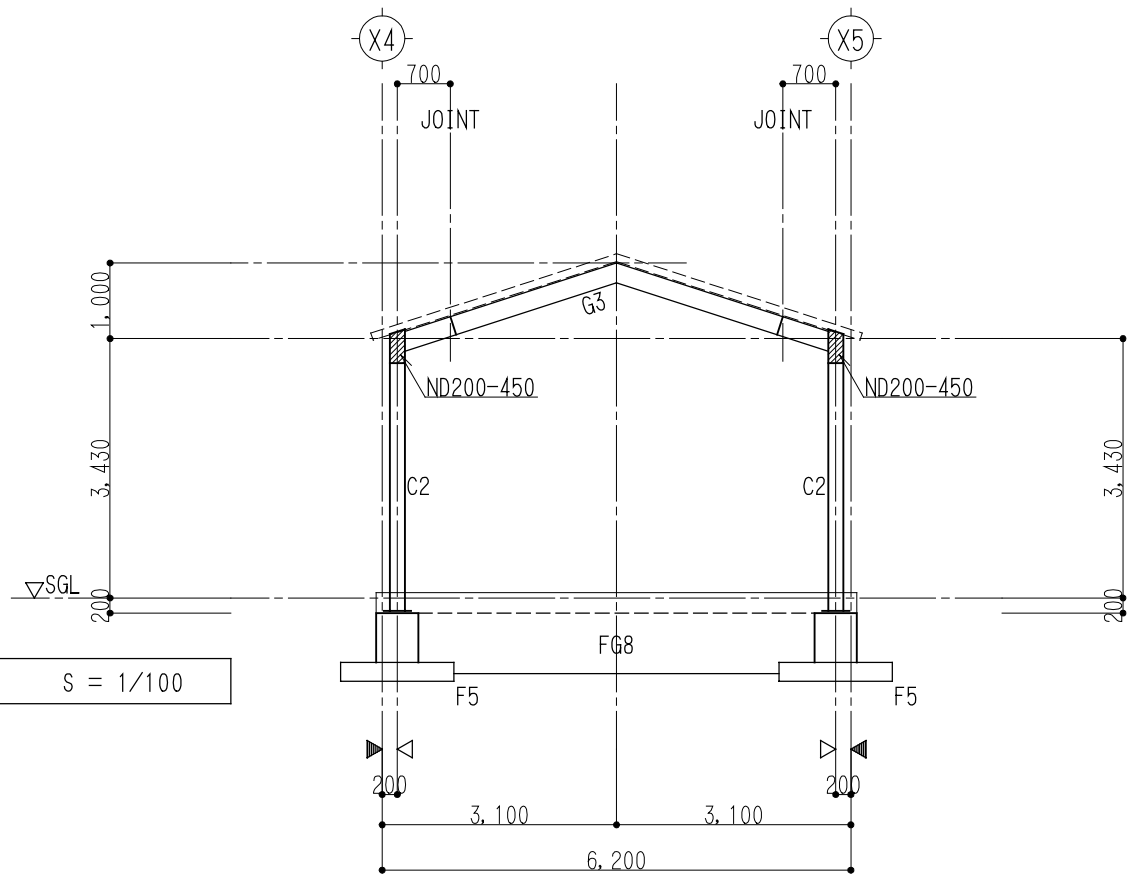


X10 通り軸組図 s = 1/100



X11 通り軸組図 s = 1/100

特記なき限り下記による。
 1) 外壁脚線: Y2-Y3 C-100x50x20x2.3 @606
 外壁脚線: Y3-Y5 2C-100x50x20x2.3 @606



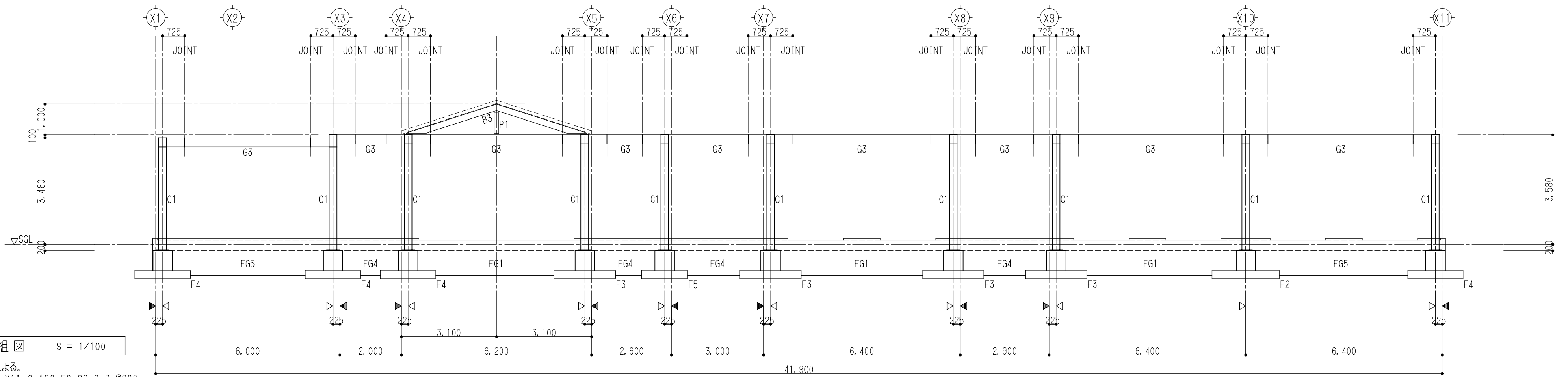
Y1 通り軸組図 s = 1/100

凡例
◁ 柱芯
◀ 壁芯

松本設計構造株式会社一級建築士事務所
 一級建築士事務所 東京都知事登録 第 61848 号
 一級建築士(大臣)登録 第 361669 号 澤井 克美

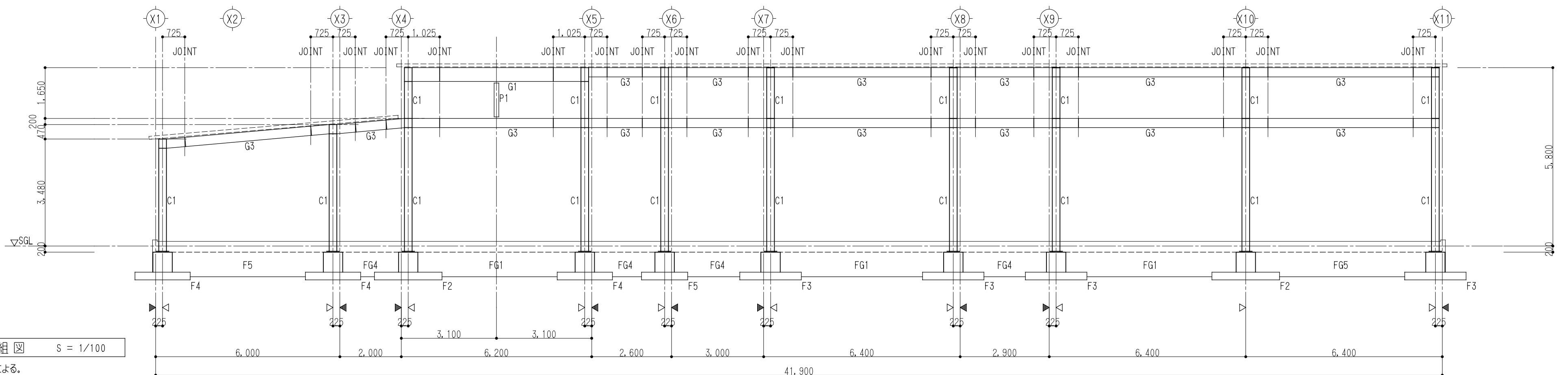
(仮称) 手代森保育園計画 その2

軸組図(3)		SCALE S=1/100(A2)	No. S-05
株式会社 都志デザイン	一級建築士 事務所登録 一級建築士	東京都知事登録第 44235 号 122624 号 馬場 正三	2025. 02. 17



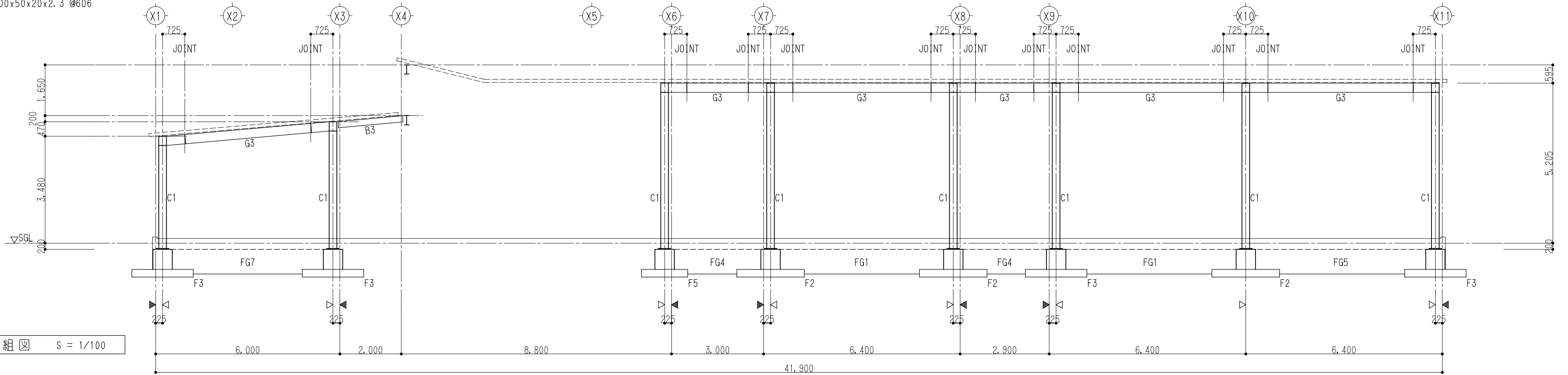
Y2 通り軸組図 S = 1/100

特記なき限り下記による。
1) 外壁鋼線: X1~X11 C-100x50x20x2.3 @606



Y3 通り軸組図 S = 1/100

特記なき限り下記による。
1) 外壁鋼線: X4~X11(上段) C-100x50x20x2.3 @606



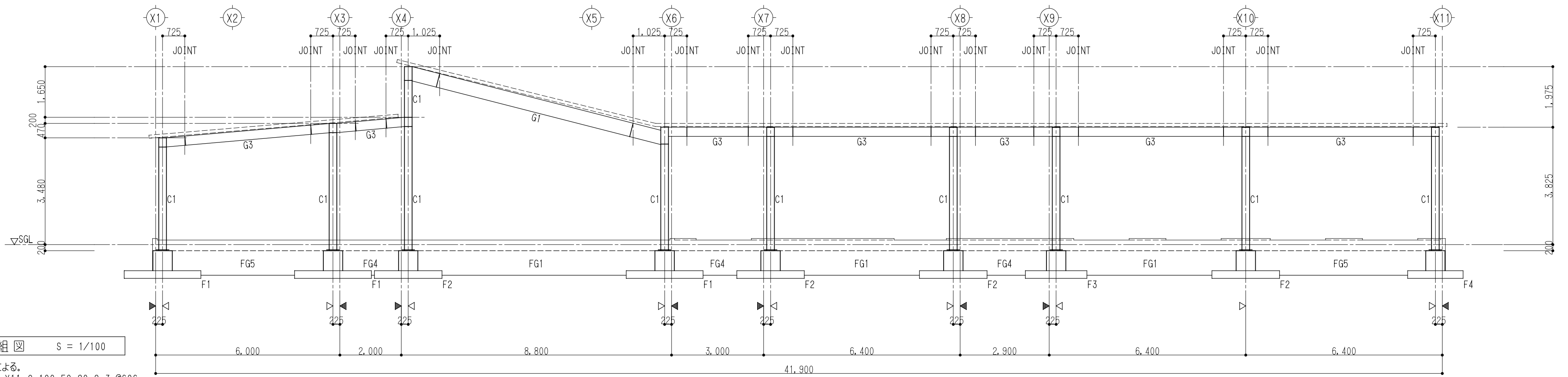
Y4 通り軸組図 S = 1/100

凡例
◁ 柱芯
◀ 壁芯

松本設計構造株式会社 一級建築士事務所
一級建築士事務所 東京都知事登録 第 61848 号
一級建築士(大臣)登録 第 361669 号 澤井 克美

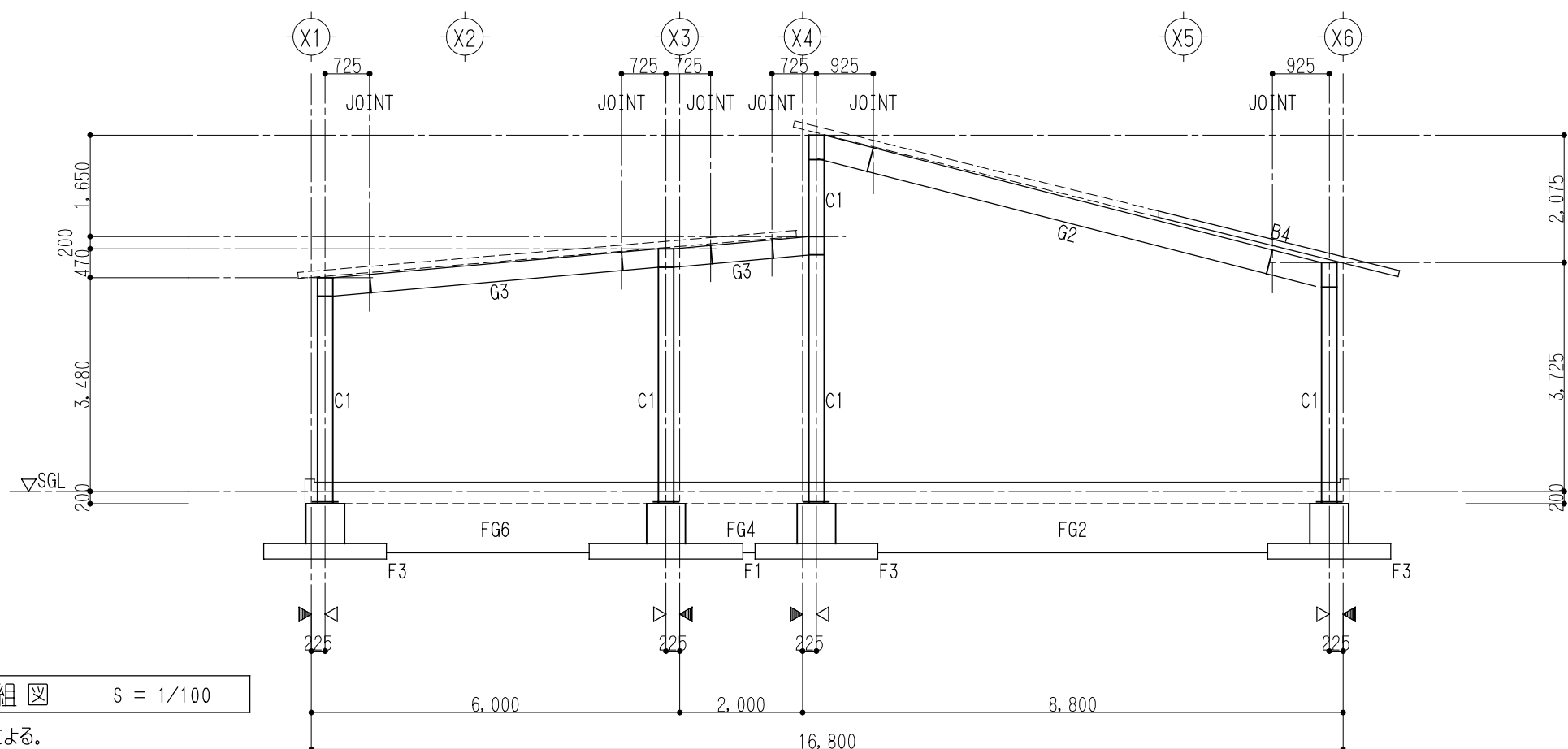
(仮称) 手代森保育園計画 その2

軸組図(4)		SCALE S=1/100(A2)	No. S-06
株式会社 都志デザイン		一級建築士 事務所登録 一級建築士	東京都知事登録第 44235 号 122624 号 馬場 正三
			2025. 02. 17



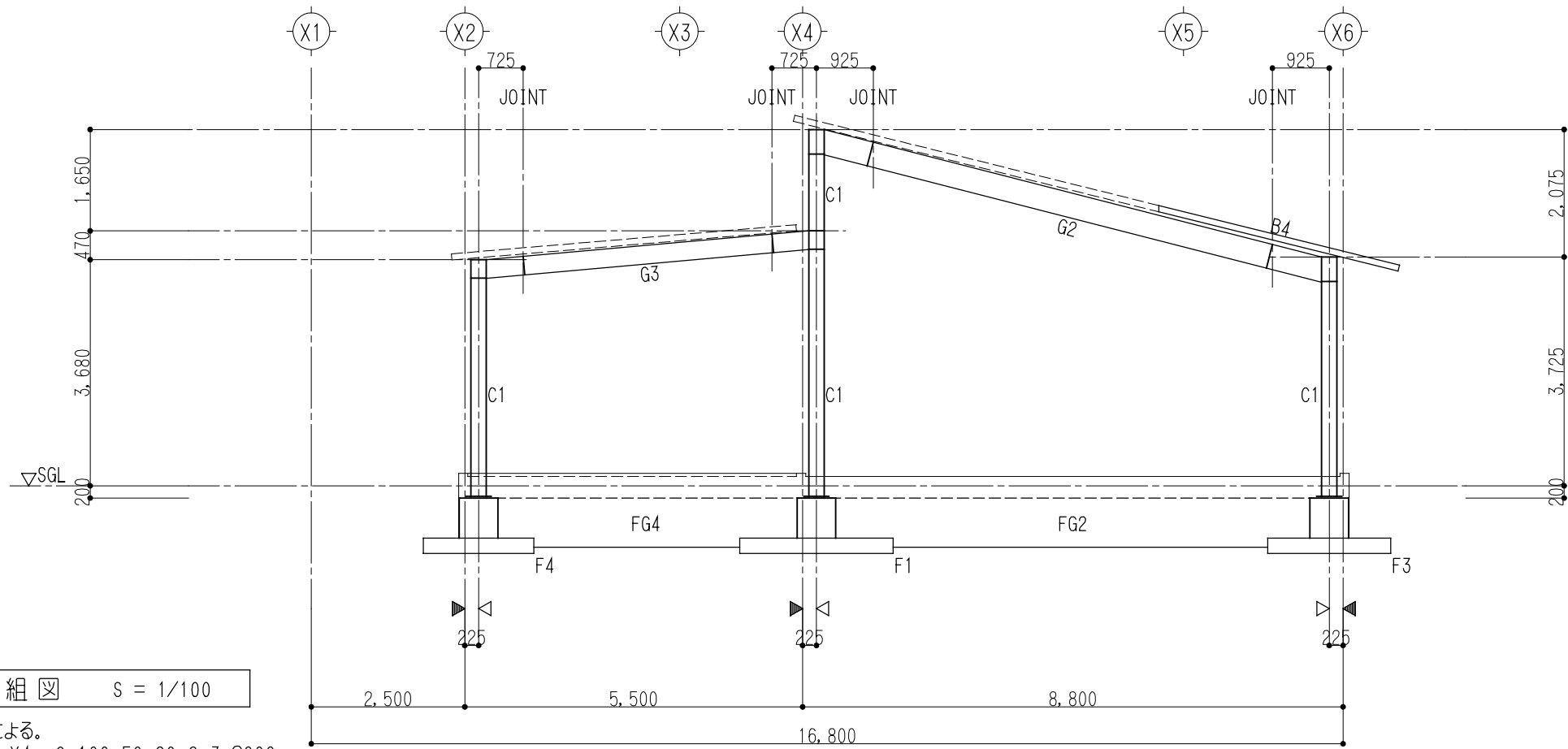
Y5 通り軸組図 s = 1/100

特記なき限り下記による。
1) 外壁鋼線: X6~X11 C-100x50x20x2.3 @606



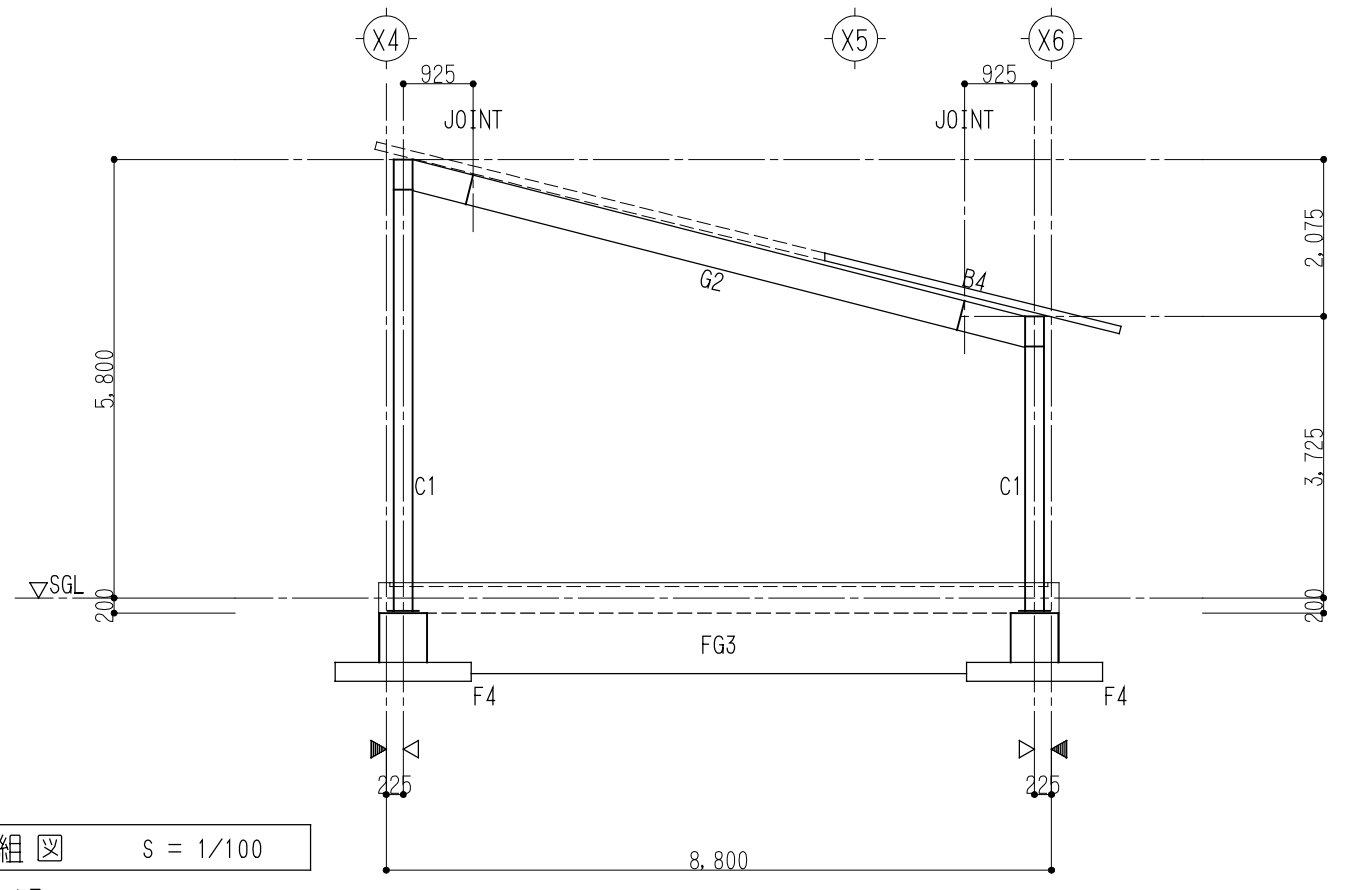
Y6 通り軸組図 s = 1/100

特記なき限り下記による。
1) 外壁鋼線: X1~X2 C-100x50x20x2.3 @606



Y7 通り軸組図 s = 1/100

特記なき限り下記による。
1) 外壁鋼線: X2~X4 C-100x50x20x2.3 @606



Y8 通り軸組図 s = 1/100

特記なき限り下記による。
1) 外壁鋼線: X4~X6 2C-100x50x20x2.3 @606

凡例
◁ 柱芯
◀ 壁芯

松本設計構造株式会社 一級建築士事務所
一級建築士事務所 東京都知事登録 第 61848 号
一級建築士(大臣)登録 第 361669 号 澤井 克美

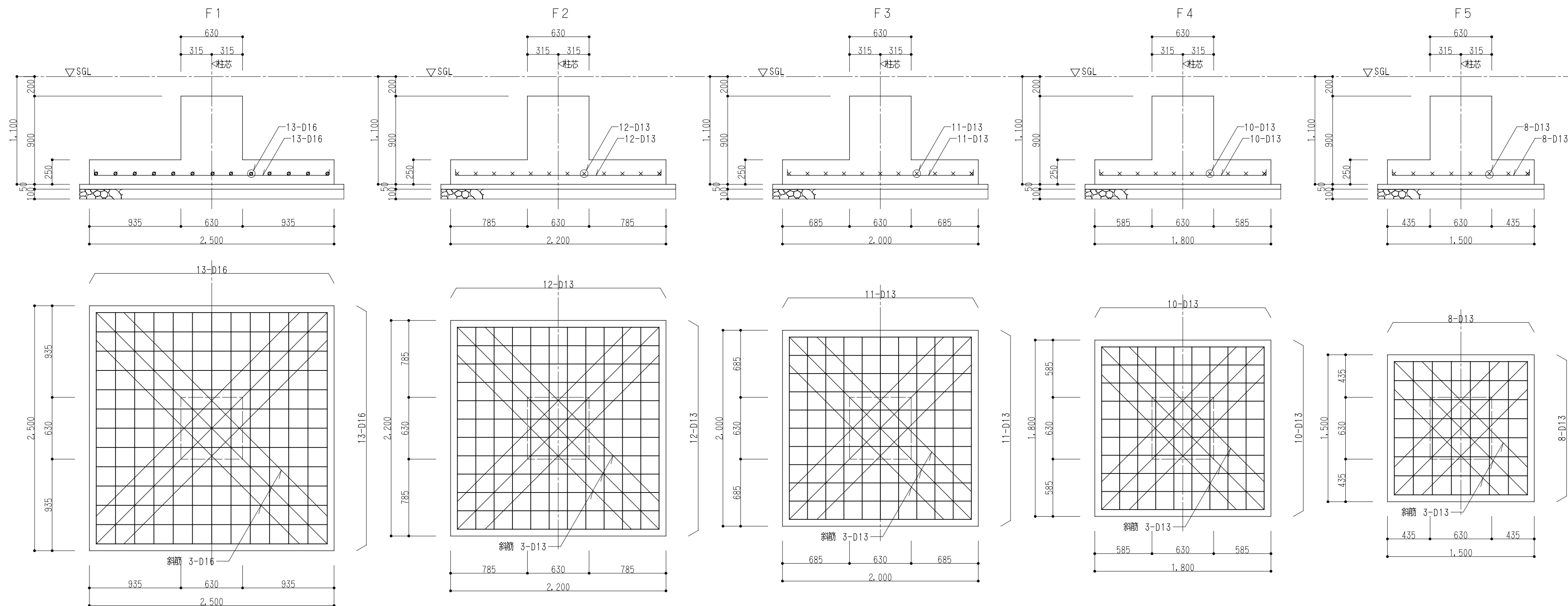
(仮称) 手代森保育園計画 その2

軸組図(5)		SCALE S=1/100(A2)	No. S-07
株式会社 都志デザイン		一級建築士 事務所登録 東京都知事登録第 44235 号 122624 号 馬場 正三	2025. 02. 17

基礎リスト

S=1/30

長期地耐力: $f_e = 70 \text{ kN/m}^2$



柱型リスト

S=1/30

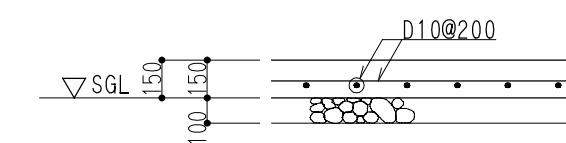
符号	FC1	FC2	
柱型断面			
$D_x \times D_y$	630 x 630	560 x 560	
主筋	12-D19(SD345)	12-D16(SD295)	
HOOP	□-D13@100	□-D13@100	

スラブリスト

符号	版厚	位置	短辺方向		長辺方向		備考
			端部	中央	端部	中央	
S1	150	上端筋	D13@200	←	D10・D13@100	←	モチアミ
		下端筋	D10・D13@100	←	D10@200	←	
S2	180	上端筋	D13@200	←	D13@200	←	モチアミ
		下端筋	D10・D13@100	←	D10・D13@100	←	
		上端筋					
		下端筋					

土間コンクリート配筋図

S=1/30



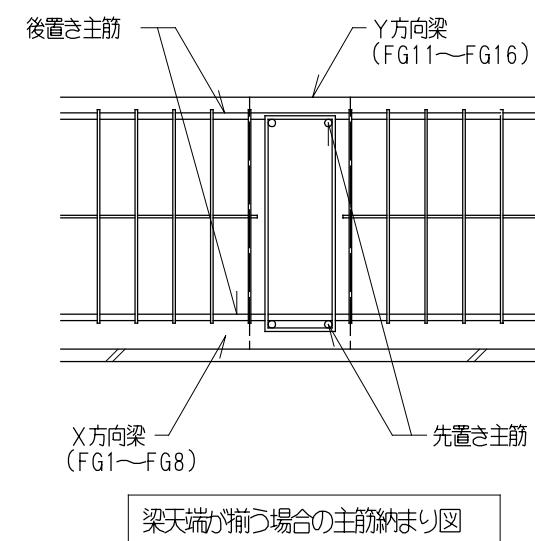
使用材料	
コンクリート	Fc21
鉄筋	D10~D16 SD295A
	D19~ SD345

松本設計構造株式会社一級建築士事務所
 一級建築士事務所 東京都知事登録 第 61848 号
 一級建築士(大臣)登録 第 361669 号 澤井 克美

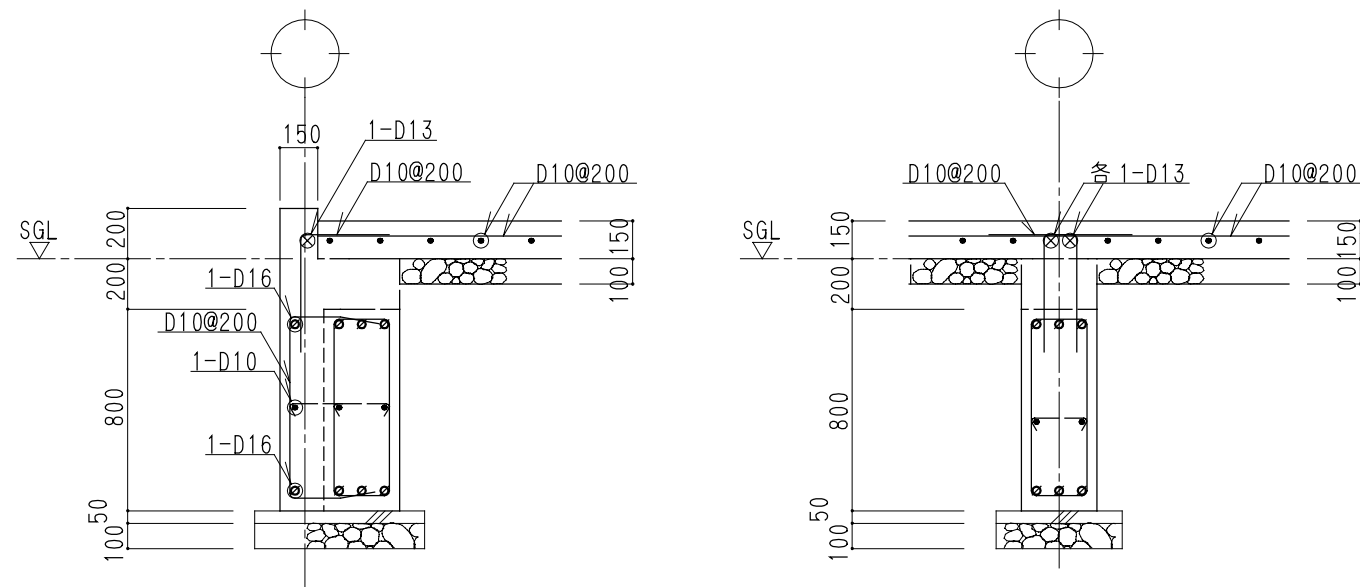
(仮称) 手代森保育園計画 その2

基礎リスト	SCALE S=1/30(A2)	No. S-08
株式会社 都志デザイン	一級建築士 事務所登録 東京都知事登録第 44235 号 一級建築士 122624 号 馬場 正三	2025. 02. 17

符号	FG1		FG2		FG3	FG4	FG5			FG6		FG7	FG8	
	両端	中央	X4端	中央・X6端	全断面	全断面	X1・X11端	中央	X3・X10端	X1端・中央	X3端	全断面	全断面	
断面														
BXD	300 x 800		300 x 800		300 x 800	300 x 800	300 x 800			300 x 800		300 x 800	300 x 800	
上端筋	5-D16	3-D16	5-D16	3-D16	4-D16	5-D16	3-D16	3-D16	5-D16	5-D16	3-D16	3-D16	3-D16	
下端筋	3-D16	5-D16	3-D16	3-D16	6-D16	3-D16	3-D16	5-D16	3-D16	3-D16	3-D16	5-D16	3-D16	
STP	□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200			□-D10@200		□-D10@200	□-D10@200	
腹筋	2-D10		2-D10		2-D10	2-D10	2-D10			2-D10		2-D10	2-D10	
符号	FG11	FG12		FG13		FG14			FG15		FG16	FB1		FB2
	全断面	Y4端	中央・Y5端	両端	中央	Y6端	中央	Y7端	Y5端	中央・Y6端	全断面	両端	中央	全断面
断面														
BXD	300 x 800	300 x 800		300 x 800		300 x 800			300 x 800		300 x 800	300 x 800		300 x 800
上端筋	3-D16	3-D16	5-D16	5-D16	3-D16	5-D16	3-D16	3-D16	6-D16	3-D16	3-D16	3-D16	3-D16	3-D16
下端筋	3-D16	3-D16	3-D16	3-D16	3-D16	3-D16	5-D16	4-D16	4-D16	4-D16	5-D16	3-D16	5-D16	3-D16
STP	□-D10@200	□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200			□-D10@200		□-D10@200	□-D10@200		□-D10@200
腹筋	2-D10	2-D10		2-D10		2-D10			2-D10		2-D10	2-D10		2-D10



土間コンクリート・基礎梁 接合部配筋要領図 S=1/30



使用材料	
コンクリート	Fc21
鉄筋	D10~D16 SD295A
	D19~ SD345

柱 リ ス ト

特記無き限り材種はBCR295とし、仕口部ダイヤフラムプレートはSN490Cとする。

符 号	部 材	BASE. 尺	A. BOLT	備 考
2C1	□-250x250x 9			
1C1	□-250x250x12	尺-36X420X420	4-M39 (SD490)	ベースパック 25-12V
1C2	□-200x200x 9	尺-28X360X360	4-M30 (SD490)	柱頭仕口部 NDコア工法 ND200-450 ベースパック 20-09V
P1	H-100x100x 6x8 (SS400)			柱頭柱脚ピン接合 尺-6 2-M16 (HTBF10T)

大 梁 リ ス ト

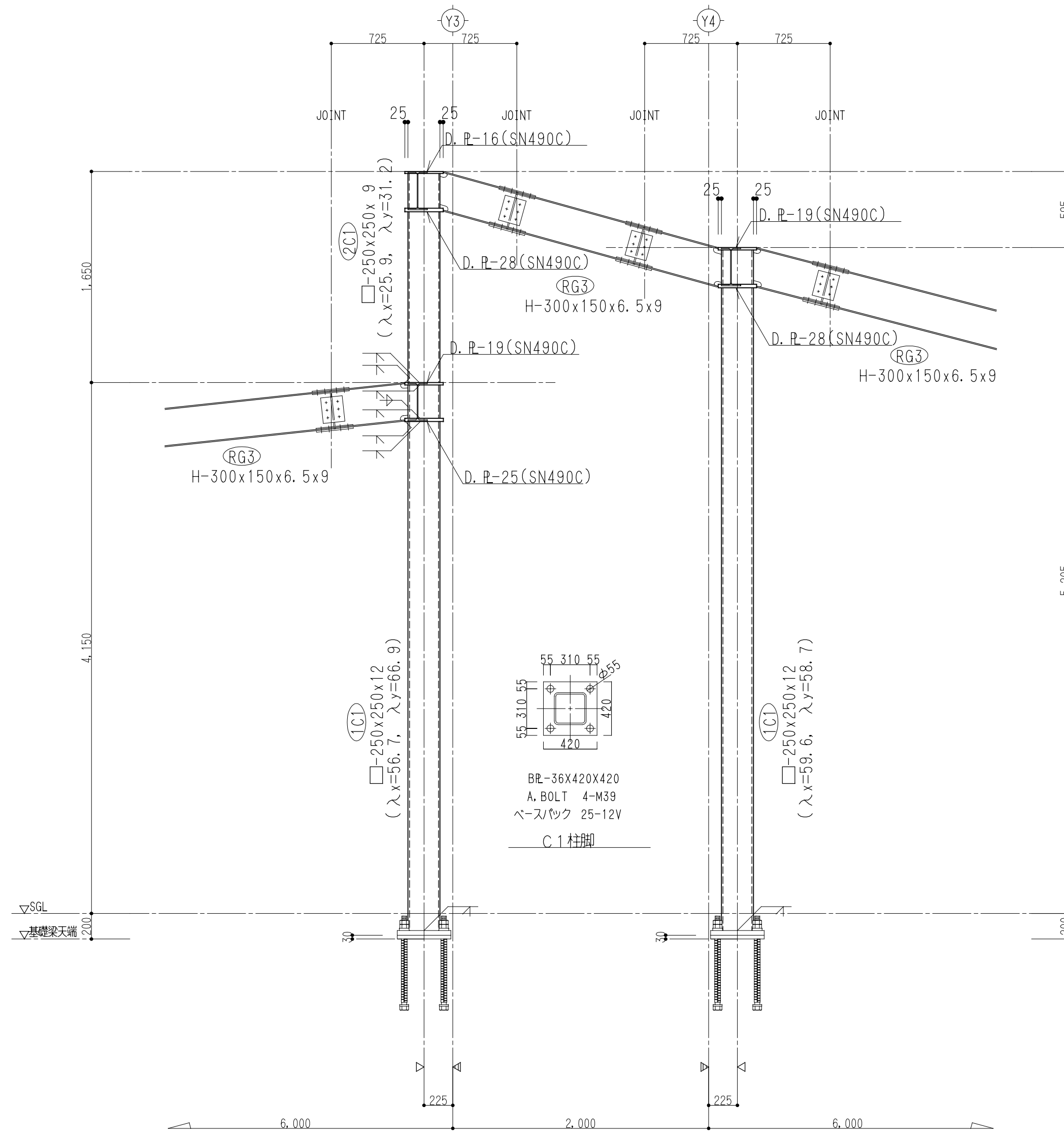
特記無き限り材種はSS400とする。
継手はSCSSに準ずる。
M16以上のボルトは高力ボルト(F10T同等品)とする。

符 号	部 材	継手 FLG(片側)		継手 WEB(片側)		備 考
RG1	H-450x200x 9x14	2尺-12	6-M20	2尺-9	5-M20	
RG2	H-400x200x 8x13	2尺-9	6-M20	2尺-9	4-M20	
RG3	H-300x150x6.5x9	2尺-9	4-M16	2尺-6	3-M16	
RG4	H-400x200x 8x13	2尺-9	6-M20	2尺-9	4-M20	大梁接合端ピン接合 GR-9 3-M16

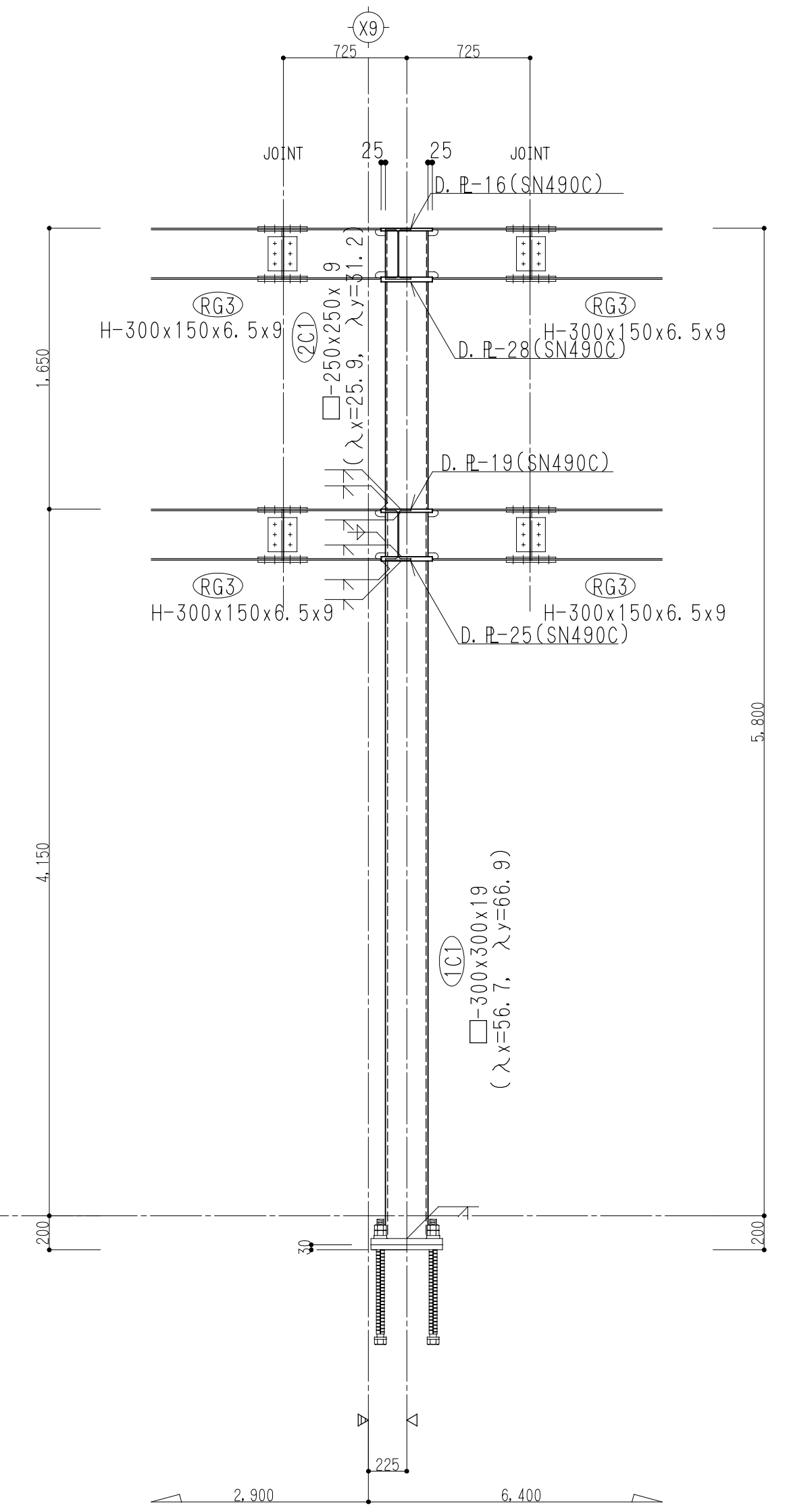
小 梁 リ ス ト

特記無き限り材種はSS400とする。
M16以上のボルトは高力ボルト(F10T同等品)とする。

符 号	部 材	SPL(WEB)		備 考
B1	H-450x200x 9x14	GR-9	4-M16	
B2	H-250x125x 6x 9	GR-6	2-M16	
B3(B3A)	H-200x100x5.5x 8	GR-6	2-M20	B3A: 4-M20(2列)
B4	H-100x100x 6x 8	GR-6	2-M16	
b	[-150x 75x6.5x10	GR-6	2-M20(2列)	
水平ナース	M12(ターンバックル付き)	GR-6	1-M16	
母屋	C-100x50x20x3.2 @455	L-90X90X7 (L=110)	1-M12 中ボルト	
胴縁	2C-100x50x20x2.3 @600	GR-4.5	1-M12 中ボルト	
胴縁	C-100x50x20x2.3 @600	GR-4.5	1-M12 中ボルト	



X9通り鉄骨詳細図 S = 1/30



Y3通り鉄骨詳細図 S = 1/30

松本設計構造株式会社一級建築士事務所
 一級建築士事務所 東京都知事登録 第 61848 号
 一級建築士(大臣)登録 第 361669 号 澤井 克美

(仮称) 手代森保育園計画 その2

鉄骨詳細図		SCALE S=1/30(A2)	No. S-11
株式会社 都志デザイン	一級建築士 事務所登録 東京都知事登録 第 44235 号 一級建築士 122624 号 馬場 正三	2025.02.17	